デジタルトランスフォーメーション

授業の目的・概要

大規模な集客を実現する方法やより多くの収益をあげる方法、業務を効率化する方法など、デジタル技術をビジネスに活用する方法を考えられるようになる。多くの顧客を集客できるような Web ページを構築できるようになる。あらゆるビジネスを「逆算」で捉えられるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	井田 洋佑
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

- DX の根幹となる逆算の考え方をを用いて、様々な企業のケースを説明することができる。
- DX がビジネス改革だということを、具体的な例を挙げながら説明することができる。
- ホームページとソーシャルメディアを活用し、潜在顧客に自社製品を認知してもらうための情報発信ができるようになる。
- 商品を遠くに早くたくさん売ることができる EC プラットフォームを活用するメリットについて理解を深められるようになる。
- 取引から在庫管理・売上管理を一元化できる POS レジアプリを活用するメリットについて理解を深められるようになる。
- 十分な顧客獲得に必要なセッション数の目標を逆算して設定し、達成するための Web ページを制作することが出来る。

授業計画

前期

第 1 回 オリエンテーション、現代ビジネスのキーワード「DX」とは何か

「デジタルトランスフォーメーション」という言葉の意味と、登場した背景を知る。

身近に触れることもある Netflix、Spotify、Airbnb、Uber、メルカリなどのサービスを例に、DX と呼ばれる代表的な取り組みとその意義について知る。

第 2 回

なぜ DX が重要かーニューノーマルとデジタルディスラプションー

新型コロナウイルスの流行前後でどのように社会の在り方が変わったか、

それにより私たちの社会生活はどういった変化を強いられてきたかを取り上げるとともに、

コロナウイルス流行後のニューノーマル時代でデジタル技術が果たす役割を知る。

またデジタル技術のをうまく活用できないことで市場を追われるリスクがあることを理解する。

第 3 回

逆算の思考法：バックカスティング／フォアカスティング

プロジェクトの進め方として、現在を起点にする考えと未来を起点にする考えの二つがあり、

フォアカスティングは短期的な、バックカスティングは長期的な課題解決に

それぞれ適していることを理解する。

その上で、DX においては理想を描いた上で適切なデジタルツールを選択できる

バックカスティングの方が適していることを理解する。

第 4 回

DX のよくある失敗

金融系システムの統合や紙媒体とハイブリットになった行政のオンライン申請を例に、

長期的なゴールを明確にできず、目先の課題にとらわれたり

形式だけのデジタル技術導入を目指してしまうことで DX が失敗に陥ることを理解する。

第 5 回

売上を上げるための DX：技術の開発と活用の違い

第 1 回で取り上げたようなドラスティックな変革を振り返り、

全く新しいシステムを生み出し業界を先導できる存在は一握りであることを理解する。

一方で、メディア発信、EC サイト参画、セルフレジ導入のように

既存のツールを適切に選択・導入し業務を効率化させることによって

小規模な企業組織であっても DX に成功できる事例があることを知る。

第 6 回

オウンドメディアの役割と特性：オムロン／キーエンス／サイボウズ

オムロン／キーエンス／サイボウズを例に、オウンドメディアの使い方として、

分かりやすく自社製品の特長を打ち出し購入への動線を強化する切り口と

多くの人の興味を喚起するコンテンツを契機に間接的に自社の認知を増やす切り口とがありその目的の違いによってどのように HP の設計やデザインが変わるかを理解する。

第 7 回 HP 制作ツールとアナリティクスについて

Google Site、ペライチ、WordPress を例に、コーディングせずに HP 制作ができるツールのそれぞれの特色と具体的な機能について知る。

第 8 回 グループワーク：HP 制作①（NJ サイトコラム）

第 9 回 グループワーク：HP 制作②（NJ サイトコラム）

NEXTJAPAN サービスが外国人留学生から認知をより幅広く得られるためにはどの HP 制作ツールを使ってどういった内容を発信したらよいか、グループで議論し実際にページを制作する

第 10 回 フィードバック：数値解析

第 7 回～第 9 回の成果物に対してアナリティクスツールで解析を行い、

どういった結果が得られるかをクラスで共有するとともに、

そこからどういった課題が見えるか、それを解決するにはどういった打ち手があるか議論する。

第 11 回 セッション数増加のための取り組み

第 10 回で分析した結果をもとに、HP のセッション数を増やすために考えられる取り組みについて議論し、実際に改善を行う

第 12 回 フィードバック：効果検証

第 11 回で行った改善対応に関して実際に効果が表れているかの確認を行う。

第 13 回 コンバージョン率上昇のための取り組み

第 10 回で分析した結果をもとに、HP のコンバージョン率を増やすために考えられる取り組みに

ついて議論し、実際に改善を行う

第 14 回 フィードバック：効果検証

第 13 回で行った改善対応に関して実際に効果が表れているかの確認を行う。

第 15 回 HP 制作まとめ

第 8 回～第 14 回の内容をもとに、集客できる Web ページの制作に必要な要素を理解する。

第 16 回 試験

第 17 回 再試験

後期

第 1 回 前期の復習、逆算の思考法

第 3 回を中心に、第 1 回～第 5 回の内容を再度振り返り、定着度をチェックする。

第 2 回 E コマース：既存 EC サイトの活用

実店舗と EC サイト、またモール型 EC サイトと自社サイト型 EC サイトについて、それぞれを比較し互いのメリットデメリットについて理解する。

また小規模な企業組織にとっては既存モールの知名度や集客力を活かせるという意味でモール型 EC サイトを用いるメリットが大きいことを理解する。

第 3 回 グループワーク：EC サイト活用事例調査

第 4 回 グループワーク：EC サイト活用事例調査

第 5 回 グループワーク：EC サイト活用事例発表

実際にモール型 EC サイトを活用して売上向上に成功した企業の事例をグループで調べそれぞれの企業がどの特徴に注目してそのサイトを選定し、結果としてどういった課題をカバーすることに成功したかを軸に発表を行う。

第 6 回 ケースワーク：EC サイトの活用による改善提案

第 7 回 ケースワーク：EC サイトの活用による改善提案

第 8 回 ケースワーク：EC サイトの活用による改善提案発表

モール型 EC サイトを活用することで売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスをグループで見つけ、具体的にどんなサイトを用いて業務を改善するかを発表する。

第 9 回 E コマース 発表フィードバック・復習

第 10 回 POS システム：顧客情報の分析

第 11 回 POS レジアプリ デモンストレーション

全サービス無料の「Air レジ」を用い、

一般的に POS レジアプリにどのような機能が備わっているかを理解する。

第 1 2 回 POS データを活用するための分析手法

サンプルデータを用意し、スプレッドシートを用いて

ABC 分析、トレンド分析、バスケット分析、RFM 分析のシミュレーションを行う。

第 1 3 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案

第 1 4 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案

第 1 5 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案

第 1 6 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案発表

POS レジアプリを活用することで売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスを

グループで見つけ、具体的にどういった運用を行えば業務を改善できるかを発表する。

第 1 7 回 POS システム 発表フィードバック・復習

第 1 8 回 試験

第 1 9 回 再試験

授業の方法

講義、ケーススタディ、グループワーク

教材

自作教材を使用する

- ・ Twitter, LINE, Instagram, Tiktok
- ・ ベライチ / Google site / WordPress
- ・ モール(amazon, 楽天), ショッピングカート ASP, CMS パッケージ
- ・ Air レジ

<参考書>

岡嶋裕史『プログラミング教育はいらない GAFa で求められる力とは?』 (光文社、2019)

岡嶋裕史『実況! ビジネス力養成講義 プログラミング/システム』 (日本経済新聞出版、2022)

小川卓『「やりたいこと」からパッと引ける Google アナリティクス 4 設定・分析のすべてがわかる本』

2025 年度

(ソーテック社、2022)

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

授業外での学習方法

1. 日々のニュースを見て、企業の DX への取り組みについて情報を集めること。
2. 就職活動の一環として、志望する企業のホームページ等を見て、DX への取り組みを調べること。

実務経験と授業科目の関係

経営学・プロジェクトマネジメント

授業の目的・概要

大目標を複数のプロジェクトにブレイクダウンし、期日を決めて目標設定できる。

科	DX ビジネス科	教員	村田 健治
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

前期

- ・ 経営学の理論を「逆算」の観点で分析し、実務での応用方法を理解できる。
- ・ 経営戦略とシステム戦略の概要を理解し、IT パスポート試験の計算問題や選択問題を解けるようになる。
- ・ 企業活動と法務の概要を理解し、IT パスポート試験の計算問題や選択問題を解けるようになる。
- ・ IT パスポートのストラテジ系（経営戦略）について、6 割以上得点することができる。

後期

- ・ プロジェクトマネジメント手法を学び、ゴール達成に向けた「逆算」型の計画を構築できる。
- ・ システム開発のプロセスを理解し、IT パスポート試験の計算問題や選択問題を解けるようになる。
- ・ マネジメントの概要を理解し、IT パスポート試験の計算問題や選択問題を解けるようになる。
- ・ セキュリティ領域におけるマネジメントを理解し、IT パスポート試験の計算問題や選択問題を解けるようになる。
- ・ IT パスポートのマネジメント系（開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント）について、6 割以上得点することができる。

授業計画

前期

第1回	オリエンテーション（授業の目的、本講義の全体像、成績評価）
第2回	第4次産業革命とビッグデータ（第4次産業革命（Society5.0）、5G、データマイニング）
第3回	企業活動①（企業活動（経営理念）、株式会社、企業の社会的責任（CSR））
第4回	企業活動②（経営組織、教育訓練技法、人材管理）（※経営学における「逆算」を含む）
第5回	企業統治と内部統制①（レピュテーションリスク、コーポレートガバナンス、コンプライアンス）
第6回	企業統治と内部統制②（内部統制（職務分掌）、監査）
第7回	経営戦略①（経営戦略、全社戦略（ベンチマーキング）、TOB、MBO）
第8回	経営戦略②（事業戦略（PPM、SWOT分析）、デジタルトランスフォーメーション）
第9回	情報システム戦略と業務プロセス（情報システム戦略（EA）、モデリング手法（DFD）、ITの有効活用（RPA、BYOD））
第10回	業績評価と経営管理システム（業績評価（BSC、KPI））（※経営学における「逆算」を含む）
第11回	業績評価と経営管理システム（経営管理システム（CRM、SFA、SCM））
第12回	財務諸表①（財務諸表、貸借対照表（買掛金、売掛金）、安全性を表す指標（流動比率））
第13回	財務諸表②（損益計算書（営業利益、経常利益）、収益性を表す指標（ROE）、キャッシュフロー計算書）
第14回	損益分岐点と資産管理①（費用と収益、損益分岐点分析棚卸資産の評価法（先入先出法））
第15回	損益分岐点と資産管理②（在庫管理、減価償却）
第16回	前期期末試験
第17回	前期期末試験返却・フィードバック
第18回	前期期末試験再試験
後期	
第1回	前期の復習、後期授業の目標・全体像
第2回	企画・要件定義プロセス①（ソフトウェアライフサイクルプロセス、企画プロセス（システム化計画）、要件定義プロセス）
第3回	企画・要件定義プロセス②（調達（RFI、RFP）、重み付け評価）

- 第 4 回 開発プロセス（開発プロセス、ソフトウェアの品質特性）
- 第 5 回 テスト手法と運用・保守プロセス①（テスト手法（ホワイトボックステスト、ブラックボックステスト）
- 第 6 回 テスト手法と運用・保守プロセス②（テスト手法（結合テスト、システムテスト、運用テスト）、運用・保守プロセス）
- 第 7 回 ソフトウェア開発手法①（ウォーターフォールモデル、アジャイル開発）
- 第 8 回 ソフトウェア開発手法②（その他の開発手法、ソフトウェアの見積り）
- 第 9 回 プロジェクトマネジメント①（プロジェクト（プロジェクト憲章）、PMBOK）
- 第 10 回 プロジェクトマネジメント②（プロジェクトマネジメントの知識エリア（WBS、統合マネジメント））
- 第 11 回 タイムマネジメント（アローダイアグラム、ガントチャート）
- 第 12 回 IT サービスマネジメント①（IT サービスマネジメント（ITIL）、サービスレベル合意書とサービスレベル管理（SLA、SLM））
- 第 13 回 IT サービスマネジメント②（利用者の問い合わせに対する対応（サービスデスク、チャットボット）
- 第 14 回 IT サービスマネジメント③（利用者のインシデントに対する対応（インシデント管理、問題管理）、ファシリティマネジメント）
- 第 15 回 システム監査①（システム監査人、予備調査、本調査）
- 第 16 回 システム監査②（調査証拠、調査調書、調査報告書、フォローアップ）
- 第 17 回 試験
- 第 18 回 試験返却・フィードバック
- 第 19 回 再試験

授業の方法

講義・グループワーク

教材

栢木 厚（2024）「令和 07 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる かやのき先生の IT パスポート教室」

2025 年度

技術評論社

評価の方法

試験 80%、授業態度 20%

平常点は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に評価を行う

授業外での学習方法

IT パスポート過去問道場

<https://www.itpassportsiken.com/ipkakomon.php>

実務経験と授業科目の関係

システムエンジニアとして、作業スケジュールの計画・顧客折衝や進捗管理システムを用いたプロジェクトマネジメントを経験

情報社会学・情報倫理

授業の目的・概要

- (1)リリースされた際の反応や影響のイメージから逆算し、ルール・マナー違反のないコンテンツを作成することができる。
- (2)その施策を取ることによる顧客からの反応や、関係者に起こりうる影響のイメージから逆算し、個人情報効果を効果的かつ適切に収集することができる。

科	DX ビジネス科	教員	大島 静流
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	—
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

前期

1. 情報社会における犯罪や危険性について例を挙げ、解決策を考えることができる。
2. SNS 等における炎上や匿名性について説明し、その対策を考えることができる。
3. 情報の出典元を確認し、信憑性の高い情報を収集することができる。
4. 不適切な表現やルール・マナー違反のおそれをあらかじめ精査し、炎上のリスクを減らした提案資料を作成し、発表することができる。

後期

5. 知的財産について法に触れる事柄を理解し、適切なコンテンツ利用を行うことができる。
6. 個人情報について法に触れる事柄を理解し、ケースごとに個人情報の提供可否を判断することができる。
7. 法律違反のおそれをあらかじめ精査し、適切な個人情報収集フォームを作成することができる。

授業計画

前期

- 第 1 回 オリエンテーション、本授業の目的・目標・年間予定伝達
- 第 2 回 情報の成り立ち
- 第 3 回 データと情報の違い
- 第 4 回 情報とメディア
- 第 5 回 電子掲示板、SNS
- 第 6 回 情報化進展による犯罪やその危険性、具体例紹介
(サイバー犯罪の種類と種類ごとの事例)
- 第 7 回 グループワーク：上記具体例の解決法の発表
(特に、技術面以外での対策を議論させる⇒ソーシャルエンジニアリング)
- 第 8 回 炎上の段階と炎上原因について
※段階：発生、拡散、報道
※原因：不適切な発言、サイト・広告の倫理的問題、
社内外からの問題リークと告発、利用客側の問題
- 第 9 回 グループワーク：炎上への対策発表
班ごとにテーマを変えて、炎上の原因と対策を議論
(炎上事例参考：<https://sakujo.or.jp/netenjyou-kigyuu/#toc17>)
- 第 10 回 グループワーク：炎上への対策発表
- 第 11 回 インターネットの匿名性、情報の信憑性
- 第 12 回 グループワーク：後輩を学校に入学させるためのプレゼン資料作成
※出展の明記、炎上の恐れがないか等に配慮して作成
- 第 13 回 グループワーク：後輩を学校に入学させるためのプレゼン資料作成
- 第 14 回 グループワーク：プレゼン資料を用いて発表
- 第 15 回 グループワーク：相互フィードバック (炎上の要素、不適切な記載はないか)
- 第 16 回 前期試験
- 第 17 回 試験返却、フィードバック
- 第 18 回 再試験

後期

第 1 回 情報発信の方法、注意点

第 2 回 知的財産（特許権、商標権）

第 3 回 知的財産（意匠権、著作権）

第 4 回 商標権侵害ケースワーク①：J-Platpat の活用

自分の持ち物から会社やブランドの名前を探し、その名称が商標登録されているか調べる

第 5 回 商標権侵害ケースワーク②：商標権トラブルが企業に与える実害

<https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/service/document/index/h29-furoku2.pdf>

第 6 回 個人情報保護法

第 7 回 個人情報の取り扱い方

第 8 回 グループワーク：個人情報保護法に違反した例を紹介し対策を議論

事例参考：[pd_hiyari.pdf \(ppc.go.jp\)](#)

第 9 回 グループワーク：上記の違反部分、解決法の発表

第 10 回 グループワーク：前期の「後輩を学校に入学させるためのプレゼン資料」を基に

個人情報を収集するアンケートフォーム作成①

第 11 回 グループワーク：前期の「後輩を学校に入学させるためのプレゼン資料」を基に

個人情報を収集するアンケートフォーム作成②

第 12 回 グループワーク：プレゼン資料とフォームを組み合わせ、活用のイメージを発表①

第 13 回 グループワーク：プレゼン資料とフォームを組み合わせ、活用のイメージを発表②

第 14 回 相互フィードバック（法律に照らして不適切な動線や記載はないか）

第 15 回 総復習①

第 16 回 総復習②

第 17 回 後期試験

第 18 回 試験返却、フィードバック

第 19 回 再試験

2025 年度

授業の方法

講義、グループワーク

教材

・ 教師用資料：『情報 I』

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm

・ 梅本 吉彦『情報社会と情報倫理 改訂版』、丸善出版

[情報社会と情報倫理 改訂版 | 吉彦, 梅本 | 本 | 通販 | Amazon](#)

・ 広瀬 安彦『図解即戦力 SNS 担当者の実務と知識がこれ 1 冊でしっかりわかる教科書』、技術評論社

[図解即戦力 SNS 担当者の実務と知識がこれ 1 冊でしっかりわかる教科書 | 野村総合研究所データサ](#)

[イエンスラボ 広瀬 安彦 | 本 | 通販 | Amazon](#)

評価の方法

試験 80%、授業態度 20%

学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に評価を行う。

グループワークの評価は授業態度点に含めるものとする。

授業外での学習方法

・ 日常生活においても授業で学んだ情報倫理を意識して行動する。

・ 毎日のニュースを確認し、個人情報漏洩や SNS での炎上があった際は、それがなぜ起こったのか、企業がそれを受けてどのような対応をしているか、調べておく。

実務経験と授業科目の関係

—

サイバーセキュリティ

授業の目的

- (1) 適切な情報セキュリティ対策を理解し、情報セキュリティリスクを排除した安全なデータ運用を実践できる。
- (2) 情報セキュリティに関して、IT パスポート試験に合格できる知識を身に着ける。

科	DX ビジネス科	教員	大野 将之
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	98

目標

前期

- 1. 情報セキュリティの目的および主な分類（機密性・完全性・可用性など）を説明できる。
- 2. 情報資産に対する脅威や脆弱性について理解し、具体的な例を挙げて説明できる。
- 3. サイバー攻撃の主な手法と、それに対する基本的な対策を説明できる。
- 4. 情報セキュリティに関連する技術とその種類（暗号化、ファイアウォール等）について説明できる。
- 5. DX を推進する上で、ISMS の考え方に基づき、目標から逆算してセキュリティ要件を計画的に組み込むことの重要性を説明できる。

後期

- 6. 簡単なリスクアセスメントを行い、適切なリスク対応策を提案できる。
- 7. マルウェアの主な種類（ウイルス、ワーム、トロイの木馬など）とその特徴を説明できる。
- 8. マルウェア対策の種類（ウイルス対策ソフト、アクセス制御など）について説明できる。
- 9. 情報セキュリティに関連する主な法規（個人情報保護法、不正アクセス禁止法など）の概要を説明できる。

授業計画

前期

- 第 1 回 授業の目的、本講義の全体像、情報セキュリティの概要
- 第 2 回 情報セキュリティの目的、機密性・完全性・可用性
- 第 3 回 情報資産、脅威、脆弱性
- 第 4 回 脅威の種類（物理的脅威、技術的脅威、人的脅威）
- 第 5 回 脆弱性の種類（物理的脆弱性、技術的脆弱性、人的脆弱性）
- 第 6 回 問題演習
- 第 7 回 サイバー攻撃方法（不正アクセス）、
ブルートフォース攻撃、辞書攻撃、パスワードリスト攻撃と各攻撃への対策
- 第 8 回 盗聴、盗聴の種類（スニファ、電波傍受、キーボードロギング）とその対策
- 第 9 回 なりすまし
なりすましの種類（パスワードリスト攻撃、フィッシング、MITB・MITM）とその対策
- 第 10 回 問題演習
- 第 11 回 DoS 攻撃・DDoS 攻撃とその対策
- 第 12 回 ソーシャルエンジニアリング（ショルダーハッキング、スキャベンジング、会話）とその対策
- 第 13 回 クロスサイトスクリプティング、クロスサイトリクエストフォージェリ、SQL インジェクション
とその対策
- 第 14 回 標的型攻撃（メール、水飲み場型攻撃、やり取り型攻撃）、ゼロデイ攻撃とその対策
- 第 15 回 問題演習
- 第 16 回 セキュリティの概要（組織的・人的な取り組み、セキュリティ技術）
セキュリティ技術の種類（暗号化、認証、マルウェア対策、フィルタリング）
- 第 17 回 暗号化、復号、共通鍵暗号方式
- 第 18 回 公開鍵暗号方式、共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違い
- 第 19 回 問題演習
- 第 20 回 認証の概要、パスワード認証、ワンタイムパスワード
- 第 21 回 バイオメトリクス認証（指紋、虹彩、声紋、静脈パターン）
- 第 22 回 デジタル署名、PKI

第 23 回 問題演習

第 24 回 リスク、リスクの要素、リスクマネジメントの流れ

第 25 回 リスクの特定と分析

第 26 回 リスクの評価、受容水準

第 27 回 リスク対応（回避、低減、移転、保有）

第 28 回 情報資産・脅威・脆弱性の復習、問題演習

第 29 回 サイバー攻撃方法の復習、問題演習

第 30 回 セキュリティ対策の復習、問題演習

第 31 回 リスクに関する復習、問題演習

第 32 回 前期期末試験

第 33 回 前期期末試験返却、フィードバック

第 34 回 前期期末試験再試験

後期

第 1 回 前期の学習内容確認、後期の授業概要説明

第 2 回 マルウェアの分類（ウイルス、ワーム、トロイの木馬）と機能（自己伝染機能、潜伏機能、発病機能）

第 3 回 マルウェアの種類（スパイウェア、ランサムウェア、ボット）

第 4 回 マルウェア対策（予防：ウイルス対策ソフト、ビヘイビア法、検疫ネットワーク）

第 5 回 マルウェア対策（感染後対応、端末管理）

第 6 回 問題演習

第 7 回 不正アクセス対策（ファイアウォール、WAF、プロキシサーバ）

第 8 回 不正アクセス対策（DMZ、IDS）

第 9 回 情報漏洩対策（リモートアクセスと認証サーバ）

第 10 回 通信の暗号化と認証（SSL/TLS、証明書）

第 11 回 リモートアクセスの安全性と VPN の種類

第 12 回 問題演習

第 13 回 物理的対策（火災：防火壁、スプリンクラー、消火器、地震：バックアップサイト、データの遠隔保管、危機管理計画の作成、落雷・停電：予備電源、避雷針）

第 14 回 物理的対策（機器の故障：冗長化・ライフサイクル管理、過失によるデータ破壊：バックアップ、フルプルーフ）

第 15 回 問題演習

第 16 回 人的対策（内部不正の防止、システム運用の管理）

第 17 回 人的対策（入室管理・アンチパスバック、セキュリティ教育）

- 第 18 回 情報セキュリティポリシーその種類（基本方針、対策基準、実施手順）
- 第 19 回 情報セキュリティマネジメントシステムと国際基準・国内基準
- 第 20 回 問題演習
- 第 21 回 個人情報保護法、プライバシーマーク制度
- 第 22 回 知的財産権：著作権とその種類（著作人格権、著作財産権、著作隣接権）
- 第 23 回 知的財産権：特許権、意匠権、実用新案権、商標権
- 第 24 回 知的財産権の事例紹介
- 第 25 回 不正アクセス禁止法、事例紹介
- 第 26 回 サイバーセキュリティ基本法、事例紹介
- 第 27 回 問題演習
- 第 28 回 問題演習
- 第 29 回 問題演習
- 第 30 回 マルウェアの復習、問題演習
- 第 31 回 不正アクセス対策の復習、問題演習
- 第 32 回 人的対策・物理的対策の復習、問題演習
- 第 33 回 人的対策・物理的対策の復習②、問題演習
- 第 34 回 法規に関する復習、問題演習
- 第 35 回 法規に関する復習②、問題演習
- 第 36 回 後期期末試験
- 第 37 回 後期期末試験返却、フィードバック
- 第 38 回 後期期末再試験

授業の方法

講義、問題演習

教材

生徒用教科書

栢木 厚（2024）「かやのき先生の IT パスポート教室（令和 7 年）」技術評論社

教師用参考資料

若狭直道（2021）「図解入門よくわかる最新情報セキュリティの技術と対策」秀和システム

評価の方法

試験 80%、授業態度 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

2025 年度

授業外での学習方法

[IT パスポート過去問道場 | IT パスポート試験ドットコム \(itpassportsiken.com\)](http://itpassportsiken.com)

[基本情報技術者過去問道場 | 基本情報技術者試験.com \(fe-siken.com\)](http://fe-siken.com)

※試験の過去問演習を行い、知識の定着を図る

実務経験と授業科目の関係

アルゴリズム・データ構造 I

授業の目的・概要

アプリケーション開発・運用・利用をマネジメント・評価する上で基礎となる、アルゴリズムの考え方を身につける。

科	DX ビジネス科	教員	村田 健治
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

前期

アルゴリズムの基礎となる、「変数」と「配列」のデータ構造を理解できる。

流れ図/疑似言語の読み取りができる。

流れ図を用いて、記号が 10 個程度のアルゴリズムを記述できる。

疑似言語など実際のプログラミングを「逆算」の観点で分析し、流れ図に書き起こせる。

後期

基礎的な探索アルゴリズム/整列アルゴリズムを理解できる。

流れ図を用いて、記号が 15 個程度のアルゴリズムを記述できる。

IT パスポート「アルゴリズムとプログラミング」分野の既習範囲において、8 割の正答率を達成できる。

授業計画

前期

第 1 週 オリエンテーション（授業内容、成績評価、平常点など）

第 2 週 アルゴリズムとプログラムの関係

アルゴリズムとは？プログラムとは？

第 3 週 コンピュータ基礎知識

第4週	良いアルゴリズムとは
分かりやすい/高速/効率的/再利用が容易
第5週	アルゴリズムの基本形
制御構造
第6週	流れ図と疑似言語
それぞれの書き方
第7週	変数(データ型/代入)
メモリ/変数の宣言
第8週	配列(参照)
データをまとめて使う方法
第9週	三角形の面積を計算する
四則演算
第10週	データの大小を判定する
データを比較する/関係演算子
第11週	変数のデータを入れ替える
入替用の変数
第12週	フローチャート読み取り演習
定着度の確認
第13週	合計を計算する
反復構造/変数の初期化/変数 i/無限ループ
第14週	最大値を探す
暫定値の変数
第15週	前期期末試験
第16週	前期期末試験返却・フィードバック
第17週	前期再試験

後期

第 1 週	探索アルゴリズム(二分探索法/概要) アルゴリズムの内容を理解する
第 2 週	探索アルゴリズム(二分探索法/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 3 週	探索アルゴリズム(ハッシュ探索法/概要) アルゴリズムの内容を理解する/同じハッシュ値が出たときの対応
第 4 週	探索アルゴリズム(ハッシュ探索法/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 5 週	整列アルゴリズム(単純選択法/概要) アルゴリズムの内容を理解する
第 6 週	整列アルゴリズム(単純選択法/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 7 週	整列アルゴリズム(単純交換法/概要) アルゴリズムの内容を理解する
第 8 週	整列アルゴリズム(単純交換法/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 9 週	整列アルゴリズム(単純挿入法/概要) アルゴリズムの内容を理解する
第 10 週	整列アルゴリズム(単純挿入法/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 11 週	整列アルゴリズム(クイックソート/概要) アルゴリズムの内容を理解する
第 12 週	整列アルゴリズム(クイックソート/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 13 週	IT パスポート対策補足講義① 10 進数、2 進数、16 進数
第 14 週	IT パスポート対策補足講義②

2025 年度

集合とベン図/データの単位

第15週 ITパスポート計算問題演習

第16週 ITパスポートプログラミング問題演習

第17週 後期期末試験

第18週 後期期末試験返却・フィードバック

第19回 後期再試験

授業の方法

講義、問題演習

教材

伊東静香(2012)『アルゴリズムを、はじめよう』インプレス

栢木厚(2024)『令和07年 イメージ&クレーバー方式でよくわかる かやのき先生のITパスポート教室』技術評論社

評価の方法

試験・レポート 80%、授業態度 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う。

授業外での学習方法

ITパスポート過去問道場(<https://www.itpassportsiken.com/ipkakomon.php>)

実務経験と授業科目の関係

—

プログラミング I

授業の目的・概要

アプリケーションの開発・運用・利用をマネジメント・評価するために、プログラミングの基礎的な文法と考え方を理解し、簡単なプログラムを作成し実行できるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	伊賀崎
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	98

目標

前期

1. Java により書かれたプログラムが実行されるまでの流れを理解できる。
2. 基本的なコンピュータ上の計算を、Java を用いて記述できる。
3. 配列・メソッドを利用して、冗長なソースコードを整理できる。

後期

4. JavaScript を用いて、プログラミング言語による設計思想の違いを理解できる。
5. 基本的なコンピュータ上の計算を、JavaScript を用いて記述できる。
6. ローコード開発ツール WebPerformer 内に JavaScript を記述し、プログラムを実行できる。

授業計画

前期

第 1 週	オリエンテーション
サンプルプログラムの作成,実行/開発の流れ
第 2 週	Java の基本構造
ブロック/クラス名/インデント/コメント
第 3,4 週	変数/データ型
変数宣言の文/変数の名前/基本データ型/変数の初期化/定数
第 5 週	評価/算術演算子/代入演算子
計算の文/優先順位/結合規則
算術演算子/文字列結合演算子/代入演算子
インクリメント/デクリメント
第 6,7 週	型の変換/条件式と論理演算子
型の変換/命令実行/制御構造/条件式/論理演算子

第 8,9 週	選択構造/反復構造 if/while/switch/for
第 10 週	配列/配列と for 文 配列/配列 for 文/拡張 for 文
第 11,12 週	配列とメモリ/null/多次元配列 ガベージコレクション/NullPointerException/多次元配列
第 13 週	メソッド① メソッド/引数
第 14 週	メソッド② 戻り値/オーバーロード
第 15 週	復習
第 16 週	前期期末試験
第 17 週	前期期末試験返却/フィードバック
第 18 週	再試験
後期	
第 1 週	JavaScript の概要と実行環境の準備 Chapter 1 (01~04)
第 2 週	演算子・変数と計算・入力の基本 Chapter 1 (05~10)
第 3 週	オブジェクトとメソッド・エラーの読み方 Chapter 1 (11~13)
第 4 週	条件分岐の基本 (if 文と比較演算子) Chapter 2 (01~05)
第 5 週	条件の組み合わせ・ネスト (入れ子) Chapter 2 (06~08)
第 6 週	実践：条件分岐を使ったミニプログラム制作 Chapter 2 (09~11)
第 7 週	繰り返し処理の基本 (for 文、while 文) Chapter 3 (01~04)
第 8 週	配列とループの応用 (九九・総当たり) Chapter 3 (05~08)
第 9 週	実践：繰り返し処理の演習と復習 Chapter 3 (09~10)
第 10 週	関数の基本と変数のスコープ Chapter 4 (01~04, 07)
第 11 週	オブジェクトと関数の組み合わせ Chapter 4 (05~06, 08~09)
第 12 週	DOM 操作入門：HTML と JavaScript の連携 Chapter 5 (01~03)
第 13 週	ユーザー入力と動的なページ操作 Chapter 5 (04~06)
第 14 週	fetch による非同期通信と外部データの活用 Chapter 6 (01~02)
第 15 週	総まとめ：API 通信 + DOM 操作の簡単なアプリ制作
第 16 週	復習
第 17 週	前期期末試験
第 18 週	前期期末試験返却/フィードバック
第 19 週	再試験

授業の方法

講義、問題演習

教材

(教科書)

リブワークス (著), 及川卓也 (監修) (2022) 『スラスラ読める JavaScript ふりがなプログラミング 増補改訂版』 インプレス

中山清喬/国本大悟(2023) 『スッキリわかる Java 入門 第4版』 インプレス

※第3版でも対応可能

中山清喬/国本大悟(2019) 『スッキリわかる Java 入門 第3版』 インプレス

評価の方法

試験・レポート 70%、授業態度 + 宿題の合計 30%

授業外での学習方法

Web サービス「paiza.io」(<https://paiza.io/ja/projects/new?language=java>)を用いて実際にコードを入力してプログラムを実行し授業の内容を復習する。

実務経験と授業科目の関係

電機メーカーにてソフトウェア開発業務や若手の技術者教育に従事

コンピュータシステム

授業の目的

コンピュータを構成するプロセッサ等の処理装置の仕組み、ネットワーク上のシステムの構成、OS の機能や構成や電子回路の仕組みについて、基本情報技術者試験に合格できるレベルの知識を身につける。

科	DX ビジネス科	教員	伊賀崎 俊朗
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

前期

- 「システム」と呼ばれるものの全容とその構成のバリエーションについて理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる。
- システムの性能を評価する指標とその算出方法を身につけ、IT パスポート試験の計算問題や選択問題を解けるようになる。
- システムを構成するハードウェアの種類とそれぞれの特徴について理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる。
- システムを構成するソフトウェアである OS の機能と構造について理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる。
- システムを構成するソフトウェアであるアプリケーションソフトウェア、中でも表計算ソフトの特徴と基本的な操作について理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる。

後期

- コンピュータを構成する要素の 1 つであるプロセッサについて、その動作原理を理解し、プロセッサに関する基本情報技術者試験のレベルの選択問題や計算問題を解けるようになる。
- コンピュータを取り巻くネットワーク上の処理システムについて、その種類と特徴や仕組み、評価指標について理解し、システムに関する基本情報技術者試験のレベルの選択問題や計算問題を解けるようになる。

8. コンピュータを取り巻くシステムのトレンドについて、BYOD や TCO などの用語について説明できるようになり、基本情報技術者試験のレベルの選択問題を解けるようになる。
9. ソフトウェアの1つである OS について、その機能と構成、主な仕事であるタスク管理・入出力管理・記憶管理について理解し、OS に関する基本情報技術者試験のレベルの選択問題や計算問題を解けるようになる。
10. ハードウェアを構成する電子回路について、AND 回路、OR 回路、NOT 回路、XOR 回路、NAND 回路、NOR 回路について理解し、電子回路に関する基本情報技術者試験のレベルの選択問題を解けるようになる。

授業計画

前期

第 1 回 オリエンテーション（授業内容、授業評価、成績について）

システムの構成①処理形態による分類

第 2 回 システムの構成②利用形態による分類

第 3 回 選択問題演習

第 4 回 システムの評価指標（MTBF、MTTR、稼働率）、

第 5 回 計算問題演習

第 6 回 ハードウェア①コンピュータの種類と特徴

第 7 回 ハードウェア②入出力装置の種類と特徴

第 8 回 選択問題演習

第 9 回 ソフトウェア①OS、データ管理とファイルシステム

第 10 回 ソフトウェア②バックアップ

第 11 回 ソフトウェア③アプリケーションソフトウェア

第 12 回 情報デザイン、オープンソースソフトウェア

第 13 回 選択問題演習

第 14 回 復習

第 15 回 前期期末試験

第 16 回 前期期末試験返却・フィードバック

第 17 回 前期期末試験再試験

後期

第 1 回 コンピュータ構成要素①プロセッサ、メモリ

第 2 回 コンピュータ構成要素②キャッシュ、入出力デバイス

第 3 回 計算問題演習、選択問題演習

第 4 回 システムの構成①冗長化、事業継続性

第 5 回 システムの構成②稼働率、待ち行列

第 6 回 システムのトレンド（オープンソース、TCO）

第 7 回 計算問題演習、選択問題演習

第 8 回 ソフトウェア①OS、ファイルシステム

第 9 回 ソフトウェア②開発ツール・オープンソースソフトウェア

第 10 回 選択問題演習

第 11 回 ハードウェア①（電子回路について）

第 12 回 ハードウェア②（全加算器、半加算器）

第 13 回 計算問題演習、選択問題演習

第 14 回 総復習

第 15 回 問題演習

第 16 回 問題演習

第 17 回 後期期末試験

第 18 回 後期期末試験返却・フィードバック

第 19 回 後期期末試験再試験

授業の方法

講義

教材

教科書：

栢木 厚 (2024) 「令和 07 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる かやのき先生の IT パスポート教室」

技術評論社

栢木 厚 (2024) 「令和 07 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室 (情報処理技術者試験)」 技術評論社

参考書：

令和 05 年 【春期】 【秋期】 応用情報技術者 合格教本 (情報処理技術者試験)、コンピュータ概論 : 情報システム入門 第 8 版

評価の方法

試験・レポート 70%、授業態度 20%、課題 10%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う。

授業外での学習方法

<https://www.itpassportsiken.com/ipkakomon.php>

<https://www.fe-siken.com/fekakomon.php>

前期は IT パスポート試験、後期は基本情報技術者試験の「過去問道場」を中心に活用し、授業内での問題演習以外でも、それぞれの回次で学習した範囲の問題演習を自主的に行い知識の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

電機メーカーにてソフトウェア開発業務や若手の技術者教育に従事。

ビジネスマナー

授業の目的

就職活動に必要な立ち居振る舞いを身に付ける。

企業とやり取りする際のマナーを身に付ける。

日本の文化や慣習を再認識し、社会人として相応しいマナーを身に付ける。

敬語の使い分けを理解する。

仕事の心得や進め方を理解する。

来客対応や電話対応を習得する。

科	DX ビジネス科	教員	梅原くみこ
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年生（日本人）	年間単位時間	49

目標

前期

1. 社会人として相応しい立ち居振る舞いができる。
2. 就職活動において、企業とマナーの良いやり取りができる。
3. 敬語を正しく適切に使うことができる。
4. 日本の文化を再認識し、まわりの人に好かれる振る舞いができる。

後期

5. 人間関係の順序を理解し、適切な来客対応ができる。
6. 仕事の中に取りべき態度やマナーを理解し、実践できる。
7. 仕事の心得や進め方を学習し、社会人としての自覚をもって社会に出られる。
8. 日本の慣習を知り、社会人として相応しい付き合いができる。
9. 敬語の使い分けを理解し、円滑な電話対応ができる。

授業計画

前期

第 1 回 前期内容、試験配点、授業の受け方、アイスブレイク / 第 2 章-1 身だしなみ

第 2 回 第 2 章-2 / 3 / 4 あいさつの基本 / おじぎ / 立ち居ふるまい

第 3 回 第 2 章-5 / 6 物の受け渡し方 / ドアの開け閉め / 入退室練習

第 4 回 第 2 章-7 名刺交換

第 5 回 第 1 章-12 / 13 上下関係 / 敬語

第 6 回 第 1 章-14 / 15 つき合い / ハラスメント

第 7 回 第 4 章-9 / 10 / 11 食事の基本 / 和食のマナー / お酒のマナー

第 8 回 第 4 章-12 / 13 個人宅訪問の基本 / 和室のマナー

第 9 回 第 5 章-1 自分を知る

第 10 回 第 5 章-2 企業を知る

第 11 回 第 5 章-4 / 5 / 6 就職活動 / 応募書類 / 面接

第 12 回 第 3 章-1 ビジネスメール / SNS のマナー

第 13 回 第 3 章-2 / 3 ビジネス文書の基本 / ビジネス文書の書き方

第 14 回 封筒・はがき

第 15 回 まとめ

第 16 回 試験

第 17 回 試験返却

第 18 回 再試験

後期

第 1 回 後期内容、試験配点、授業の受け方、アイスブレイク / 第 2 章-8 席次

第 2 回 第 2 章-9 / 10 ご案内 / お茶出し

第 3 回 第 2 章-11 / 12 企業訪問 / 社外での打合せ

第 4 回 第 1 章-1 学生と社会人との違い

第 5 回 第 1 章-2 / 3 就業時間 / 遅刻・早退・欠勤

第 6 回 第 1 章－4 / 5 話し方と聞き方 / 指示の受け方

第 7 回 第 1 章－6 / 7 依頼 / 謝罪

第 8 回 第 1 章－8 / 9 情報共有（報連相） / 伝え方

第 9 回 第 1 章－10 / 11 仕事の優先順位 / 情報管理

第 10 回 第 4 章－1 / 2 / 3 異文化コミュニケーション / 企業文化 / 冠婚葬祭【冠】

第 11 回 第 4 章－4 / 5 冠婚葬祭【婚 / 葬】

第 12 回 第 4 章－6 / 7 / 8 冠婚葬祭【祭】 / お中元とお歳暮 / いろいろな贈りもの

第 13 回 敬語発展 使い分け

第 14 回 第 3 章－4 / 5 / 6 電話対応の基本 / 電話の受け方 / 電話のかけ方

第 15 回 第 3 章－7 会議の基本

第 16 回 まとめ

第 17 回 試験

第 18 回 試験返却

第 19 回 再試験

授業の方法

講義、演習

教材

教材

・羽鳥美有紀（2021）『これ一冊でしごとのすべてがわかる！日本で働くための本 - 就活生から社会人まで - 』株式会社アスク出版

参考教材

・武田聡子・長崎清美（2020）『留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール』
日本能率協会マネジメントセンター

・小川誉子美・前田直子（2019）『日本語文法演習 敬語を中心とした対人関係の表現-待遇表現-』
スリーエーネットワーク

・松本節子（2022）『初級から超級まで STEP 式にほんご練習帳 敬語』株式会社ユニコム

・三吉礼子・矢野清美（2004）『あなたの日本語に磨きをかける 敬語（初・中・上級）』専門教育出版

2025 年度

使用機材

プロジェクター、タブレット端末

評価の方法

期末試験 80%、平常点 15%、課題点 5 %

- ・ 期末試験はペーパーテストを実施する。
- ・ 平常点は、授業態度（居眠り、ゲームや SNS 等授業と無関係なスマートフォン等の使用は減点の対象となる）および演習への取り組み姿勢にて採点を行う。

授業外での学習方法

普段から正しい敬語を使って話す・書くを意識し、実践しながら身に付ける。

実務経験と授業科目の関係

商品や接客に関する研修業務に従事

ビジネス文書

授業の目的

Window's (OS を使用した PC 操作を理解し、アプリケーションソフトウェア Word の基礎を習得して実践を重ねていくことにより、検定資格試験が取得可能な技術を身につける。

科	DX ビジネス科	教員	川嶋 忍
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

前期：

Window's (OS での PC 操作をスムーズに行う。

ローマ字入力による、ひらがなや漢字への変換をスムーズに行う。

基本的な社内文書と社外文書を作成する。

目的に合わせたさまざまなパターン作表をする。

後期：

タッチタイピングでキー操作をする。

さまざまなビジネスシーンに見合う文書を、自ら考え作成する。

グラフィック機能を使用し、視覚的に訴える文書を作成する。

MOS 試験などの検定試験を受験する。

授業計画

前期：

第 1 回 オリエンテーション 自己紹介、席決め、

授業目的 目標 評価 ホームワーク iPad の活用方法) について、PC 取扱注意事項

－Window's と PC 操作－ パソコンの種類と起動、マウスの操作、

Window's の画面構成、アプリケーションの起動、キーボードの名称と機能

- 第 2 回 ローマ字 ひらがな 漢字、タッチタイピングの覚え方、入力モードと日本語 IME
ひらがなの入力、漢字変換
－フォルダやファイル操作－ ウィンドウの操作、ファイル/フォルダの作成と移動
ファイル/フォルダの表示の変更、ファイルの拡張子について
- 第 3 回 －Word の基本－ 起動と終了、画面構成、新規文書の作成と個々の文書を閉じる
文書の保存、読込、まとめ
－入力操作の基本－ ひらがなの入力と改行、文節の変更と漢字変換、
ひらがなからカタカナ ローマ字の変更、文字の削除と挿入、文字のコピーと貼り付け
－書式設定－ 文字の書式、段落の書式、書式のコピーとクリア、
箇条書きと段落番号の設定、段組み、ヘッダーとフッターの設定
- 第 4 回 －ビジネス文書－ 編集記号の表示、ページ設定、ビジネス文書のフォーム、
社内文書と社外文書、
挨拶文、頭語と結語、記書き、ビジネス文書の編集
- 第 5 回 －表の作成－ 表の構成、範囲選択方法、行列の挿入と削除、高さやサイズ変更、結合 分割
表のデザイン、Excel との連携
文章作成のまとめ
- 第 6 回 －MOS 試験対策－
}
- 第 13 回 答練
- 第 14 回 前期の総まとめ 前期期末試験対策
- 第 15 回 前期期末試験
- 第 16 回 前期期末試験返却 解説
- 第 17 回 前期期末再試験

授業計画

後期：

- 第 1 回 前期の総まとめ、後期目標の確認、後期実施予定の検定試験について
- 第 2 回 MOS 検定勉強において－書式設定・応用編－
} いろいろなページ区切りと段組み、ヘッダーとフッターのユーザー設定、
- 第 3 回 ((表紙とページ番号
- 第 4 回 －グラフィック要素 1・2－
} ワードアートの挿入、画像の書式設定
- 第 5 回 画像の挿入と配置、スマートアートの挿入、編集
- 第 6 回 テキストボックスの挿入と設定、図形の挿入と設定、図形の応用、練習問題、まとめ

第 7 回 (暑中見舞いはがき/ポストカードの作成

第 8 回 **MOS 検定模擬試験対策**－

ゝ

第 12 回 答練

第 13 回 **－ビジネス活用－** テンプレートの活用、さまざまな表作成、各ビジネス書式フォーム作成

第 14 回 案内状 縦書き) の作成

第 15 回 申込書の作成 ポスターの作成

第 16 回 1 年間の総まとめ 後期期末試験対策

第 17 回 後期期末試験

第 18 回 後期期末試験返却 解説

第 19 回 後期期末再試験

授業の方法

タッチタイピング練習→講義 必ず前回の振り返りを行う→実践→演習→確認。

单元ごとにミニテストを配信。学生は学校貸与の iPad を使用し、スキルチェックを行い弱点を克服する。

スキル不足の学生については、授業外の学習方法についても見直しを図る。

教材

生徒配布

著者：富士通エフオーエム株式会社 (2021)

『よくわかる Word2021&Excel2021 スキルアップ問題集 操作マスター編』 (出版：FOM 出版)

教師所持

著者：富士通エフオーエム株式会社

MOS Word 365 対策テキスト&問題集 (よくわかるマスター)

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 10%、課題学習 (タイピングや知識問題) 10%。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

授業外での学習は、配信された課題へのチャレンジ等、自主性により評価する。

2025 年度

授業外での学習方法

Google (Classroom) を使用して、配信された授業のまとめを振り返り、疑問点をなくす。

授業欠席者は、ここで授業内容の確認をする。

長期休暇中 期末試験前 検定試験前には、模擬テストや質問コーナーのトピックを設けるので
総復習を行い、疑問点については質問コーナーのトピックで質問する。

実務経験と授業科目の関係

データ作成代行業務に従事

ビジネスコミュニケーションⅠ（週2）

授業の目的

1. 交渉が交渉相手との勝負ではなく、同じゴールを共に達成するためのコミュニケーションであることを理解し、交渉の際に考慮すべき重要なポイントについて説明できるようになるため。
2. ビジネスシーンで使われる交渉戦術のメカニズムを理解し、かけひきに対して、Win-Win のゴールを目指す建設的な会話への軌道修正を図ることができるようになるため。

科	DX ビジネス科	教員	寺 尾 寿 樹
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	98

目標

《前期》

1. 交渉における自分の立場を客観的に把握することができるようになる。
2. 交渉の場で、自分の最大限の力を引き出す方法について理解する。
3. 交渉の場で、相手の譲歩を引き出す投げかけができるようになる。
4. 交渉の場で、お互いの主張の妥協点を見つける方法について理解する。
5. 会話の能力にかかわらず交渉をうまく進める方法について理解する。

《後期》

1. 交渉の場で、会話の流れから相手の戦略を把握することができるようになる。
2. ハーバード流交渉術を理解し、要点を説明できるようになる。
3. 交渉の場で、相手の建前と本音の境界を見極めることができるようになる。
4. 交渉の場で、相手の本音を引き出す話の聴き方について理解する。
5. 交渉の場で、インターバルを取り冷静になる必要性とメリットについて説明できるようになる。

授業計画

《前期》

- 第 1 週 オリエンテーション（授業の目的・目標・成績評価方法等説明）
- 第 2 週 交渉の心がまえ①（交渉における優先事項、相手の本音を探る）
- 第 3 週 交渉の心がまえ②（交渉取引のコツ、要求してみよう）
- 第 4 週 交渉の心がまえ③（「取引費用」と「機会費用」、ワーキング・リレーションシップ）
- 第 5 週 演習①（相手の本音を探る練習をしよう）
- 第 6 週 演習②（利益を考えたいうえで交渉してみよう）
- 第 7 週 BATNA の考え方①（BATNA とは、ZOPA とは）
- 第 8 週 BATNA の考え方②（現実的な代替案の準備、幅広い解決策）
- 第 9 週 BATNA の考え方③（中長期的な条件の提示、契約における柔軟性）
- 第 10 週 演習①（提案に対して、代替案を考えよう）
- 第 11 週 演習②（契約してもらえそうな提案をしよう）
- 第 12 週 多者間交渉のキホン①（リフレーミングとは、ステークホルダーとは）
- 第 13 週 多者間交渉のキホン②（プロセスマップとは、記録の重要性）
- 第 14 週 多者間交渉のキホン③（論点（利害）の把握、伝え方のコツ）
- 第 15 週 演習①（グループで交渉における戦略を考えよう）
- 第 16 週 演習②（グループで交渉をしてみよう）
- 第 17 週 ハーバード流交渉術とは①
- 第 18 週 ハーバード流交渉術とは②
- 第 19 週 ハーバード流交渉術の 4 つの原則①
- 第 20 週 ハーバード流交渉術の 4 つの原則②
- 第 21 週 相手の主張の裏を見極める①
- 第 22 週 相手の主張の裏を見極める②
- 第 23 週 演習①（相手に納得してもらえそうな説得力のある交渉内容を考えよう）
- 第 24 週 演習②（相手に納得してもらえそうな交渉しよう）
- 第 25 週 前期 まとめ 試験対策①
- 第 26 週 前期 まとめ 試験対策②
- 第 27 週 前期期末試験

第 28 週 試験返却

第 29 週 再試験

《後期》

第 1 週 前期内容の振り返り

第 2 週 すべての話し合いは交渉である①（冷静な話し合い、本質的な話し合い）

第 3 週 すべての話し合いは交渉である②（優先順位、BATNA を意識した判断）

第 4 週 すべての話し合いは交渉である③（お互いの利害、選択するときの注意事項）

第 5 週 演習①（冷静に目的を考えながら話し合いをしよう）

第 6 週 演習②（お互いの利害を考えながら優先順位を付けて話し合おう）

第 7 週 かけひきの正しい進め方①（取引費用と機会費用での判断、交渉時のタブー）

第 8 週 かけひきの正しい進め方②（ZOPA を描く、交渉戦略）

第 9 週 かけひきの正しい進め方③（統合型交渉、感情的になる事のリスク）

第 10 週 演習①（交渉時のタブーを考えながら判断しよう）

第 11 週 演習②（俯瞰で考える練習をしよう）

第 12 週 代表者同士の話し合い①（総論賛成の考え方、全員の合意より大多数の合意）

第 13 週 代表者同士の話し合い②（アジェンダの重要性、アイデアの整理）

第 14 週 代表者同士の話し合い③（意見のまとめ方、ファシリテーター・リーダーシップ）

第 15 週 演習①（大多数から合意の取れる交渉とは何かについて考えよう）

第 16 週 演習②（効率よく話し合いを進めるためにはどうするのがいいかについて考えよう）

第 17 週 第三原則「お互いの利益に配慮した複数の選択肢」①

第 18 週 第三原則「お互いの利益に配慮した複数の選択肢」②

第 19 週 第三原則「お互いの利益に配慮した複数の選択肢」③

第 20 週 お互いが納得する「ものさし」を見つけ出す①

第 21 週 お互いが納得する「ものさし」を見つけ出す②

第 22 週 お互いが納得する「ものさし」を見つけ出す③

第 23 週 演習①（お互いが納得できる戦略を考えよう）

2025 年度

第 24 週 演習②（お互いが納得できる交渉をしよう）

第 25 週 前期 まとめ 試験対策①

第 26 週 前期 まとめ 試験対策②

第 27 週 前期期末試験

第 28 週 試験返却

第 29 週 再試験

授業の方法

講義、ケーススタディ（ワーク）、ロールプレイング、プレゼンテーション、ディスカッション

教材

【主教材】

松浦 正浩 「世界一やさしい交渉学入門 おろしどころの見つけ方」インプレス

【副教材】

星井 博文（訳）「マンガでわかる ハーバード流 交渉術」双葉社

谷原 誠 「知識ゼロからのビジネス交渉術」幻冬舎

野沢 聡子 「大学生のための交渉術入門」慶應義塾大学出版会

評価の方法

前期・後期ともに試験 60%、授業態度（出欠席・遅刻、居眠り、授業に無関係なスマホ使用等含む）20%
課題学習（提出物の出来栄え・取り組みの姿勢・発表内容等）20%と総合的に評価する。

授業外での学習方法

毎日の世界のニュースを確認し、企業の合併や国際会議など、どんな調整がなされ、どのような結末に至ったのか、また、その案件がどのような経緯で合意・不合意に至ったのかを調べ、交渉が成立もしくは不成立となった原因を分析し、発表と通じて、理解を深めていく。

実務経験と授業科目の関係

ホテルマンとしてのサービス販売経験・企業研修等人財育成支援プログラムの販売経験あり

ビジネス表計算

表計算ソフト Microsoft Excel、Google スプレッドシートの操作方法を習得し、用途に応じて適切に機能を使い分け、短時間で効率的にリストや管理表を作成しデータの集計ができるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	井田 洋佑
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

前期

- ・ Microsoft Excel の基本的な操作方法を習得し、適切な体裁で顧客名簿を作成できるようになる。
- ・ Microsoft Excel を用いて、名簿と紐づけられた数値データに対して関数による自動計算ができる。
- ・ セルの書式設定や罫線など、体裁に関する表計算ソフトの基本的な機能について理解し、体裁が乱れたデータを適切に修正できるようになる。

後期

- ・ IF 関数と VLOOKUP 関数を組み合わせ、全ての情報が格納されたマスターデータから、一定の条件を満たす特定のデータだけを適切なレイアウトで取り出したレポートを作成できるようになる。
- ・ 操作ミスによって破損してしまった Google スプレッドシートのデータを復元することができる。
- ・ 多すぎる種類の情報が格納されたリストを分割し、主キーを軸に複数のリストを正確に紐づけることができる。

授業計画

前期

第 1 回 オリエンテーション

授業目的・目標・評価・ホームワーク(iPad の活用方法)について、PC 取扱注意事項

第 2 回 Excel の基本

起動と終了、画面構成、シートの作成・削除、保存、読込、フォルダ作成

第3回 セル操作の基本

セルとシート、データの入力と修正、データの消去、セルや行列の削除・挿入、データのコピーと移動、オートフィル、セルの表示形式

第4回 表の作成と編集①

配置、フォント、フォントサイズ、罫線、線種、塗りつぶし

第5回 表の作成と編集②

表のスタイル、表の検索と置換、表の並べ替えとテーブルの解除リスト作成演習（クラス名簿）

第6回 リスト作成演習①

クラス名簿を作る

第7回 数式と参照①

合計の計算、関数を使った合計や平均の計算、最大、最小

第8回 数式と参照②

相対参照、絶対参照、複合参照

第9回 グラフ機能

円グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの色やレイアウト、スタイルの変更、棒グラフの作成、グラフの種類や表示の変更

第10回 リスト作成演習②（顧客名簿）

クラス名簿と数値データを紐づけ計算を行い、その結果をグラフ化する

第11回 リストの体裁を維持・保護する機能

シートの保護・範囲の保護、セルのサイズ調整、行と列の固定、形式を選択して貼り付け、データの入力規則、理想的なデータの形状

第12回 リスト修正演習①

体裁の乱れたリストの見た目を整える

第13回 リスト修正演習②

フィルターが正常に機能しないリストを修正する（表記ゆれ、半角全角、数値と文字列、セル結合）

第14回 問題演習

第 15 回 前期期末試験

第 16 回 前期期末試験返却・フィードバック

第 17 回 前期期末再試験

後期

第 1 回 前期の復習

第 2 回 高度な関数①

IF 関数と条件分岐、IFS 関数と複数の条件分岐

第 3 回 高度な関数②

数値の四捨五入、切り捨て、切り上げ、順位付け、昇順と降順

第 4 回 高度な関数③

VLOOKUP 関数、関数のネスト、エラーコードの解読

第 5 回 リスト作成演習③

IF 関数と VLOOKUP 関数を用い、マスターデータから希望するデータを取り出す

第 6 回 リスト作成演習④

前期に作成したクラス名簿から証明書フォーマットを作成する

第 7 回 スプレッドシートについて

Excel との違い、Google ドライブを用いた共有、同時編集機能、編集履歴の保存機能

第 8 回 リスト復元演習

破損・消去されてしまった Google スプレッドシートのデータを復元する

第 9 回 データの正規化

冗長性の排除、主キーの抽出、完全関数従属の実現

第 10 回 リスト分割演習①

第 11 回 リスト分割演習②

要素が多すぎる一つのリストを複数のリストに分割する

主キーがあるリストの情報をもとに他のリストの情報も一意に定まるようにする

第 12 回 資格試験問題演習①

2025 年度

- 第 13 回 資格試験問題演習②
- 第 14 回 資格試験問題演習③
- 第 15 回 問題演習①
- 第 16 回 問題演習②
- 第 17 回 後期期末試験
- 第 18 回 後期期末試験返却・フィードバック
- 第 19 回 後期期末再試験

授業の方法

講義、演習、グループワーク

教材

主教材

・著者:富士通エフオーエム株式会社 (2020)

『よくわかる Word2019&Excel2019 スキルアップ問題集 操作マスター編』 出版:FOM 出版

参考書

・著者:日本情報処理検定協会 (2019) 『情報処理技能検定試験(表計算)模擬問題集』 3・4 級編

出版:日本情報処理検定協会

・著者:桑名由美(2022) 『Googleworkspace 完全マニュアル [第 2 版] 』 出版:秀和システム

・著者:薬師寺国安(2022) 『Google スプレッドシートとツボとコツがゼッタイにわかる本』

出版:秀和システム

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%

授業態度点には、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行い、授業時間内で作成するリスト作成課題の結果を含めるものとする。

授業外での学習方法

2025 年度

--

実務経験と授業科目の関係

システム・学生情報管理課にて、エクセル関数を使用したデータ作成・データ管理業務に従事。

英語 I

授業の目的

日常会話を超え、国際的なビジネスの場面に通用する会話力を身に付ける。

科	DX ビジネス科	教員	揖場千尋
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

前期

1. be 動詞 + Ving を用いて現在進行形を作成できる。
2. will を用いて、現在進行形との使い分けができるようになる。
3. 比較級・最上級を使い分けて文を作成できるようになる。
4. 過去形・過去進行形の文を正しく作成できるようになる。

後期

1. Have to/can't を使って強制と禁止の意味を理解し、文を作成できるようになる。
2. 現在完了を使い肯定文・疑問文を作成できるようになる。
3. Be 動詞+過去分詞を用いて受動態の文が作成できるようになる。
4. will/may/might を使って正しく文を作成できるようになる。

授業計画

前期

第 1 週	授業の目的、目標、評価の方法、授業外での学習方法
第 2～3 週	動名詞をとる一般動詞 This is fun!
第 4～5 週	現在進行形と未来表現 Out and about
第 6～7 週	比較級・最上級 Mother Nature
第 8～9 週	助動詞 could を用いる表現 TV and movies
第 10～11 週	一般動詞過去 Happy endings?
第 12～13 週	過去進行形 Travel tables
第 14 週	試験対策
第 15 週	前期期末本試験
第 16 週	前期期末本試験返却・フィードバック

第 17 週	前期期末再試験
後期	
第 1 週	授業の目的、目標、評価の方法、授業外での学習方法
第 2～3 週	可算名詞・不可算名詞 What's cooking?
第 4～5 週	have to/can't を用いる強制と禁止 At home
第 6～8 週	現在完了：経験 Danger
第 9～11 週	未来を表す will High tech
第 12～14 週	現在形の受動態 Material world
第 15～16 週	可能性を表す will, may and might Disaster!
第 17 週	試験対策
第 18 週	後期期末試験
第 19 週	後期期末試験返却・フィードバック

授業の方法
講義・演習

教材
主教材
『Get Ahead (Student Book) 2』 OXFORD
『Get Ahead (Workbook) 2』 OXFORD

評価の方法
期末試験 80 点+授業参加点 10 点+課外学習点 10 点 = 100 点
課外学習点は、毎週課す語彙の習得・自宅での事前学習の取り組み度合いによる。

授業外での学習方法
単元ごとの語彙、読解の予習・復習

実務経験と授業科目の関係
なし

デザイン思考

授業の目的

ユーザーの視点から課題を発見するデザイン思考の考え方を身につけ、デジタル技術を活用して顧客に新しい価値提供ができる方法を考えられるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	森
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

目標

- 「観察・共感 (Empathize)」「定義 (Define)」「概念化 (Ideate)」「試作 (Prototype)」「テスト (Test)」を構成要素とするデザイン思考のフレームワークを実例に基づいて説明できるようになる。
- ペルソナ・典型的な顧客像の仮説を立てるプロセスを説明できるようになる。
- カスタマージャーニーを描くことが出来る
- ユーザの観察の際に、どこを見るべきか説明できる
- ビジネスモデルキャンパスの内容を記載することが出来る

授業計画

前期

- 第 1 回 ICE BREAK (授業の全体像、成績評価、講師の自己紹介 等)
- 第 2 回 デザイン思考とは何か? IDEO について
- 第 3 回 伝統的なマーケティングとデザイン思考の違い
- 第 4 回 アート思考とは何か?
- 第 5 回 デザイン思考を少しだけ細かく見てみよう (5step フレームワーク)
- 第 6 回 何故、デザイン思考が必要とされているのか (逆算思考の基になる目標地点の探し方)
- 第 7 回 事例① IDEO によるプロダクトデザイン→プロダクトデザインをしてみよう (課題 1)
- 第 8 回 事例② IDEO による体験のデザイン→サービスをデザインしてみよう (課題 2)
- 第 9 回 「共感」に関する深掘り
- 第 10 回 「定義」に関する深掘り

第 11 回 「アイデア作成」に関する深掘り

第 12 回 「プロトタイピング」に関する深掘り

第 13 回 「テスト」に関する深掘り

第 14 回 期末試験対策

第 15 回 期末試験対策

第 16 回 期末試験

第 17 回 期末試験返却・フィードバック

第 18 回 再試験

後期

第 1 回 ICE BREAK

第 2 回 ペルソナシートについて (2~9 回:外国人の就職活動の新サービスについて考える)

第 3 回 ペルソナシートを書いてみよう (課題 1)

第 4 回 カスタマージャーニーについて

第 5 回 カスタマージャーニーを書いてみよう (課題 2)

第 6 回 ブレインストームについて

第 7 回 ブレインストームをやってみよう

第 8 回 ビジネスモデルキャンパスについて

第 9 回 ビジネスモデルキャンパスをやってみよう (課題 3)

第 10 回 ケーススタディ① APPLE とデザイン思考

第 11 回 ケーススタディ② AirBnB とデザイン思考

第 12 回 ケーススタディ③ 任天堂 Wii とデザイン思考

第 13 回 ケーススタディ④ テスラとデザイン思考

第 14 回 ケーススタディ⑤ GE・P&G とデザイン思考

第 15 回 期末試験対策

第 16 回 期末試験対策

第 17 回 期末試験

2025 年度

第 18 回 期末試験返却・フィードバック

第 19 回 再試験

授業の方法

講義、ケーススタディ、グループワーク

教材

参考書

ジャスパー・ウ(2019)『実践 スタンフォード式 デザイン思考 世界一クリエイティブな問題解決 (できるビジネス)』インプレス株式会社

松本 勝(2023)『デザイン思考 2.0 人生と仕事を変える「発想術」』小学館

ティム・ブラウン(2019)『デザイン思考が世界を変える イノベーションを導く新しい考え方』早川書房

評価の方法

期末試験 50%、授業態度点 20%、課題点 30%

授業態度は、出席状況と、発言の量と質を、総合的に判断する

授業外での学習方法

消費者の感情（嬉しい、憎らしい、悲しい、楽しい）に注意を払って、世の中のサービスや商品を観察する。

実務経験と授業科目の関係

統計学・データアナリティクス

目的

データを効率的に処理・分析し、その結果から売上を向上させるアイデアを提案できるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	中村 太一
コース	DX・IT ビジネスコース	教員の実務経験	×
対象	2 年次	年間単位時間	49

目標

前期

- 表計算ソフトで MOS Expert レベルの関数を用いた計算やデータの抽出を行うことができる。
- 表計算ソフトのマクロ機能を用いて一連の操作を記録しておいた状態で実行し、作業時間を短縮することができる。
- 表計算ソフトの機能を利用してグラフとしてデータを図示することができる。
- その機能の利用に適した形にデータを成形し、表計算ソフトのピボットテーブル機能を利用して分析・集計することができる。

後期

- 特定のデータについて、表やグラフを含む資料を用いてその状況を説明できるようになる。
- 統計学の手法を用い、特定のデータが持っている傾向やそのデータ内の要素同士の関係性を読み取ることができる。
- 経営戦略立案のために、どのようなデータを集計・分析すべきか判断することができる。
- データの集計・分析に基づいて次にとるべき戦略を起案し提案することができる。

授業計画

前期

第 1 回 オリエンテーション

授業の目的、成績評価、本講義の全体像、統計学とは、データアナリティクスとは

第 2 回 1 年次の復習①（基本的な関数）

SUM、AVERAGE 等

第 3 回 1 年次の復習②（高度な関数）

IF、IFS、VLOOKUP 等

第 4 回 資格試験問題演習（関数）

第 5 回 マクロ機能について

マクロの作成、実行、編集

第 6 回 実践演習（マクロ）

第 7 回 集計・分析に適したデータの形式について

クロス集計表とリスト集計表、表形式の変換、書式の統一

第 8 回 高度な機能を使用したグラフ①

2 軸グラフ、ヒストグラム、パレート図、箱ひげ図

第 9 回 高度な機能を使用したグラフ②

マップグラフ、サンバースト、じょうごグラフ、ウォーターフォール図

第 10 回 資格試験問題演習（グラフ）

第 11 回 ピボットテーブル

第 12 回 ピボットグラフ

第 13 回 資格試験問題演習（ピボットテーブル）

第 14 回 試験対策

第 15 回 前期期末試験

第 16 回 前期期末試験返却・フィードバック

第 17 回 前期期末再試験

後期

第 1 回 前期の復習

第 2 回 平均と中位数

第 3 回 四分位範囲

第 4 回 分散

第 5 回 相関分析

第 6 回 クラスター分析

第 7 回 報告書作成演習①

第 1 章に沿って演習

第 8 回 報告書作成演習②

第 2 章に沿って演習

第 9 回 報告書作成演習③

第 3 章に沿って演習

第 10 回 報告書作成演習④

第 4 章に沿って演習

第 11 回 報告書作成演習⑤

第 5 章に沿って演習

第 12 回 報告書作成演習

第 6 章に沿って演習

第 13 回 「逆算」の活用例について

総務省統計局主催の統計セミナー（令和 3 年度版）を参考に

第 14 回 試験対策①

第 15 回 試験対策②

第 16 回 試験対策③

第 17 回 後期期末試験

第 18 回 後期期末試験返却・フィードバック

第 19 回 後期期末再試験

授業の方法

講義、演習

教材

参考書

山下秀二(2023)『よくわかるマスター Microsoft© Office Specialist Excel 365&2019 Expert 対策テキスト &問題集』 (富士通エフ・オー・エム株式会社)

倉田博史(2019)『図解 大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる』 (KADOKAWA)

岡嶋裕史・吉田雅裕(2021)『はじめてのAIリテラシー(基礎テキスト)』 (技術評論社)

横山暁・花井友美 (2024) 『POS データで学ぶ はじめてのマーケティングデータ分析』 (オーム社)

評価の方法

期末試験 70%、授業態度 30%

授業態度は、授業に関係のないこと（携帯使用、おしゃべり、ほかの授業の課題など）をしていた場合は減点。意欲がみられる場合は加点となる。

授業外での学習方法

授業での学習内容を Google フォームで配信する。クイズ形式で行い、80点/100点の点数でその授業を理解できたとする。

実務経験と授業科目の関係

—

簿記

授業の目的

- ・ IT パスポート試験の会計・財務範囲の問題を解くことができるようになる。
- ・ 日商簿記 3 級の資格を取得できるレベルの知識を身に付けることができるようになる。
- ・ 収入と支出の内容を理解し、経理の流れをしっかりと把握することができるようになる。
- ・ 予算管理の意識を持ち、目標達成に必要なコストを経理面から管理することができるようになる。
- ・ 簿記の日常業務を理解し、勘定科目と関連付けて、会社全体の営業活動をイメージできる。
- ・ 会計目線・経営目線から、デジタル化・業務改善・ビジネスモデルなどを捉え、マネジメント・評価することができる。

科	DX ビジネス科	教員	植木
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

目標

前期

- ・ 簿記を学ぶ目的（会社の財政状態が把握できる）を説明できる。
- ・ 取引の発生→仕訳→総勘定元帳への転記→試算表作成→決算整理→財務諸表作成→帳簿の締切という経理の流れを説明できる。
- ・ 簿記の仕訳で使用される用語(82 語)を覚え、取引を確認した際に貸方と借方への仕訳を正しく行うことができる。
- ・ 取引を確認して、帳簿(仕訳帳・総勘定元帳・現金出納帳・当座預金出納帳・小口現金出納帳・仕入帳・売上帳・受取手形記入帳・支払手形記入帳・商品有高帳・買掛金元帳・売掛金元帳・固定資産台帳)を正しく作成することができる。

後期

- ・簿記の仕訳で使用される用語(82 語)を覚え、取引を確認した際に貸方と借方への仕訳を正しく行うことができる。
- ・総勘定元帳を元に試算表(合計試算表・残高試算表・合計残高試算表)を正しく作成することができる。
- ・取引を確認して、伝票(入金伝票・出勤伝票・振替伝票)へ正しく記入することができる。
- ・決算整理(現金過不足の処理・当座借越の振替・貯蔵品の振替・貸倒引当金の設定・固定資産の減価償却・消費税の処理・前払、前受、未払、未収の処理・売上原価の算定・法人税等の計上・当期純利益、当期純損失の計上)を正しく行い、試算表から精算表を作成することができる。
- ・精算表から財務諸表(損益計算書・貸借対照表)を正しく作成することができる。
- ・各勘定科目の振替及び締切を行い、正しく帳簿を締め切ることができる。
- ・売上と利益の関係を理解し、財務諸表から利益率や損益分岐点を求めることができる。

授業計画

前期

- 第 1 回 オリエンテーション、本授業の目的・目標・年間予定伝達
- 第 2 回 簿記とは何か・簿記の役割(P2～P10)
- 第 3 回 商品売買・現金・預金の仕訳①(P12～P49)
- 第 4 回 商品売買・現金・預金の仕訳②(P12～P49)
- 第 5 回 小口現金・手形・電子記録債権・貸付金・借入金の仕訳(P54～P77)
- 第 6 回 第 3～5 回の復習
- 第 7 回 その他の債権債務・その他の費用(P80～P113)の仕訳
- 第 8 回 貸倒と貸倒引当金・有形固定資産と減価償却・株式の仕訳(P120～P153)
- 第 9 回 法人税と消費税・前払・未払い・訂正・税金の仕訳(P158～P185)
- 第 10 回 第 7 回～第 9 回の復習
- 第 11 回 帳簿への記入①(P190～P195)
- 第 12 回 帳簿への記入②(P196～P201)
- 第 13 回 帳簿への記入③(P202～P209)

第 14 回 第 11 回～第 14 回の復習

第 15 回 前期試験

第 16 回 試験返却・解説

第 17 回 前期試験再試験

後期

第 1 回 オリエンテーション、本授業の目的・目標・年間予定伝達

第 2 回 前期の復習(仕訳)

第 3 回 前期の復習(帳簿への記入)

第 4 回 試算表 (P212～P213)

第 5 回 伝票(P220～P233)

第 6 回 決算手続①(決算整理)(P244～P257)

第 7 回 決算手続②(決算整理)(P259～273)

第 8 回 決算手続③(試算表作成) (P212～P213)

第 9 回 決算手続④(財務諸表作成) (P272～P273)

第 10 回 決算手続の復習

第 11 回 帳簿の締切(P276～P283)

第 12 回 売上と利益の関係、利益・利益率の種類

第 13 回 損益分岐点、固定費・変動費、変動費率

第 14 回 損益分岐点の計算、エクセルでのグラフ作成

第 15 回 簿記 3 級問題演習①

第 16 回 簿記 3 級問題演習②

第 17 回 後期試験

第 18 回 後期試験返却・復習

第 19 回 後期試験再試験

授業の方法

講義、問題演習

2025 年度

教材

穂坂治宏『新なるほど合格塾 日商簿記3級 第2版』中央経済社

評価の方法

試験 80%、授業態度 20%

授業態度は、授業への取り組み具合（携帯や居眠り等をしていないか）、出席状況等を総合的に見て判断する、

授業外での学習方法

・IT パスポート過去問道場（※試験の過去問演習を行い、知識の定着を図る）

実務経験と授業科目の関係

なし

人的資源管理

授業の目的

- ・経営学検定初級レベルの「人的資源管理」の知識をつける
- ・売上（業務効率）を最大化するような、合理的で無駄のないタスク管理ができる

科	DX ビジネス科	教員	谷山 丈慶
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2年次	年間単位時間	49

目標

前期

- 1.人的資源の重要性を説明することができる。
- 2.人的資源管理を行うことのメリット・デメリットを挙げることができる。
- 3.採用や雇用形態の種類を挙げ、メリット・デメリットを説明することができる。
- 4.企業の成功事例から人的資源管理を行う上で重要な要素を考察することができる。

後期

- 5 賃金の仕組み、人材配置の重要性を説明することができる。
- 6.タスクを整理し、ガントチャートを作成することができる。
- 7.作成したガントチャートから必要な人的資源を見積もることができる

授業計画

前期

- 第1回 オリエンテーション、本授業の目的・目標・年間予定伝達
- 第2回 人的資源とは
- 第3回 人的資源管理とは、人事管理との違い
- 第4回 人的資源管理を行うことのメリット・デメリット（前）
- 第5回 人的資源管理を行うことのメリット・デメリット（後）
- 第6回 人的資源管理の要素
- 第7回 採用の種類、採用方法ごとのメリット・デメリット（前）
- 第8回 採用の種類、採用方法ごとのメリット・デメリット（後）
- 第9回 雇用形態、雇用形態の種類
- 第10回 雇用形態ごとのメリット・デメリット（前）
- 第11回 雇用形態ごとのメリット・デメリット（後）
- 第12回 人材育成・人材育成の方法

第 13 回 企業事例紹介、企業事例から成功する要因を議論（グループワーク）

第 14 回 企業事例から成功する要因を議論・発表（グループワーク）

第 15 回 前期試験

第 16 回 前期期末試験返却、フィードバック

第 17 回 前期期末再試験

後期

第 1 回 前期の復習、後期の目標伝達

第 2 回 賃金の種類、種類ごとのメリット・デメリット（前）

第 3 回 賃金の種類、種類ごとのメリット・デメリット（後）

第 4 回 福利厚生

第 5 回 人材の配置、異動

第 6 回 人的資源管理の要素まとめ

第 7 回 小テスト

第 8 回 テストフィードバック

第 9 回 業務スケジュール作成の工程

第 10 回 業務スケジュールデモンストレーションのテーマ・目標発表
（半年後にキャリアフォーラムの開催）、To do リストの作成（グループワーク）

第 11 回 To do リストの作成・発表（グループワーク）

第 12 回 プロジェクトの進め方を計画

第 13 回 ガントチャートの作成

第 14 回 ガントチャートの作成

第 15 回 必要な人的資源の見積もり（各作業でどのくらいの人数が必要か）（グループワーク）

第 16 回 グループごとの発表・フィードバック

第 17 回 後期期末試験

第 18 回 後期期末試験返却、フィードバック

第 19 回 後期期末再試験

授業の方法

講義・グループワーク

教材

・『人的資源管理』（上林 憲雄）

[人的資源管理（【ベーシック+】） | 上林 憲雄 | 本 | 通販 | Amazon](#)

・『経験から学ぶ人的資源管理 新版』（上林 憲雄）

[経験から学ぶ人的資源管理 新版 \(有斐閣ブックス\) | 上林 憲雄, 厨子 直之, 森田 雅也 | 本 | 通販 | Amazon](#)

2025 年度

・『新しい人事労務管理 第 6 版』（佐藤 博樹, 藤村 博之, 八代 充史）
[新しい人事労務管理 第 6 版 \(有斐閣アルマ > Specialized\) | 佐藤 博樹, 藤村 博之, 八代 充史 | 本 | 通販 | Amazon](#)

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%。

授業態度の評価は、積極的に発言する等授業に積極的に参加する姿勢を見られた場合加点、授業に関係ないこと（携帯を触る、寝る、しゃべる、飲食する）等した場合減点する。

授業外での学習方法

アルバイトなどで人的資源管理の実態を把握し、授業内容の理解を深める。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

実務経験と授業科目の関係

マーケティング・デザイン

授業の目的

1. ターゲットのニーズから逆算して商品やサービスを作り出すマーケティングができるようになる。
2. Web サイトや SNS を通じて、集客や売り上げ増加などのゴールを意識したデジタルマーケティングができるようになる。

科	DX ビジネス科 (2 年制)	教員	大島 静流
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	—
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

目標

前期

1. マーケティングのスタイルの移り変わりと、現代におけるデジタルマーケティングの重要性について理解し、説明することができる。
2. マーケティングがニーズとウォンツを解決するものであることを、実例を交えて説明することができる。
3. 顧客のニーズ把握から始まるマーケティングの流れについて説明することができる。
4. 消費者の満足度を数値化して表す純顧客価値の考えについて、実例を交えて説明することができる。
5. STP マーケティング、4P、4C について市場での実例を交えて説明することができる。

後期

6. デジタルマーケティングを、認知拡大・理解の促進・顧客化、リピーター化までの流れに沿って説明することができる。
7. ホームページ、サービスサイト、オウンドメディア、ランディングページ、EC サイト、採用サイト、ブランドサイトのそれぞれの特徴と用途の違いを説明することができる。
8. 集客効果を高めるために必要な Web ページの要素を説明することができる。
9. Google サイトを用いたサイトを作成することができる。

10. Web サイト閲覧者の離脱を防ぐために必要な措置をページごとに行うことができる。

11. デザイン・UI・UX の観点から作成した HP を改善することができる。

授業計画

前期

第 1 回 オリエンテーション（授業方法、評価方法の説明など）

授業の全体像（デジタルマーケティングの導入）

第 2 回 デジタルマーケティングの歴史

第 3 回 現代におけるデジタルマーケティング

第 4 回 マーケティングとは？／ニーズとウォンツ①

第 5 回 マーケティングとは？／ニーズとウォンツ②

第 6 回 マーケティング 1. 0～マーケティング 4. 0

第 7 回 マーケティングの流れ

第 8 回 消費者の満足度をあらわす方程式（コトラー）

第 9 回 総顧客価値と総顧客コスト

第 10 回 様々なマーケティング手法（STP、4P、4C）

第 11 回 様々なマーケティング手法（R・STP・MM・I・C）

第 12 回 ケースワーク：有名企業のマーケティング①（スターバックス、Apple の 4 P）

第 13 回 ケースワーク：有名企業のマーケティング②（Apple の 4 P）

第 14 回 試験対策

第 15 回 前期期末試験

第 16 回 試験返却・フィードバック

第 17 回 再試験

後期

第 1 回 前期の復習、後期の導入

第 2 回 デジタルマーケティングの 3STEP・6phase

第 3 回 Web サイトの種類①（ホームページ、サービスサイト）

- 第 4 回 Web サイトの種類②（オウンドメディア、ランディングページ）
- 第 5 回 Web サイトの種類③（EC サイト、採用サイト、ブランドサイト）
- 第 6 回 離脱について／ページごとの離脱防止策
- 第 7 回 デザインの基礎
- 第 8 回 Web デザインの基礎
- 第 9 回 Web デザインと UX
- 第 10 回 サイト制作①
- 第 11 回 サイト制作②
- 第 12 回 サイト制作③
- 第 13 回 サイト改善①
- 第 14 回 サイト改善②
- 第 15 回 サイト改善③
- 第 16 回 試験対策
- 第 17 回 後期期末試験
- 第 18 回 試験返却・フィードバック
- 第 19 回 再試験

授業の方法

講義、ケースワーク

教材

- ・平野敦士カール（2024）『新版 大学 4 年間のマーケティング見るだけノート』宝島社
- ・森和吉（2023）『日本一詳しい Web 集客術 デジタル・マーケティング超入門』ぱる出版
- ・栗谷幸助、相原典佳、藤本勝己、村上圭、吉本孝一（2023）『初心者からちゃんとしたプロになる Web デザイン基礎入門 改訂 2 版』株式会社インプレス

評価の方法

試験 80%、授業態度 20%

2025 年度

学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に評価を行う。

グループワークの評価は授業態度点に含めるものとする。

授業外での学習方法

- ・ 日常生活で、自身が商品の購入やサービスの利用を行う際、それがどのようなニーズを想定して作り出されたものかを分析する。
- ・ 日常生活で、自身が Web サイトや SNS を通じて商品の購入やサービスの利用を行う際、どのような狙いでサイト制作や SNS 運用がなされているかを分析する。

実務経験と授業科目の関係

—

アルゴリズム・データ構造 II

授業の目的

SQL の基礎的な文法と概念を理解し、「WebPerformerNX」で作成したアプリケーション内で、データベースの操作を実行できるようになることを目的とする。

科	DX ビジネス科	教員	村田
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

目標

前期

1. SQL を用いて、基本的なデータベースを作成できる。
2. SQL を用いて、データベースから必要な情報を検索し取得できる。
3. SQL を用いて、2 段階の集計処理（GROUP BY 句のネストなど）を実行できる。
4. 複雑な操作をビューとして定義し、簡潔な SQL 文での運用ができる。
5. ORACLE MASTER Silver SQL 2019 の既習範囲において、5 割以上の得点を目指す。

後

期

6. SQL を用いて、複数のテーブルを適切に結合して操作できる。
7. SQL におけるトランザクション処理を理解し、データの整合性と安全性を確保できる。
8. SQL を用いて、ユーザー権限の管理を行い、データベースのセキュリティを強化できる。
9. ORACLE MASTER Silver SQL 2019 の既習範囲において、8 割以上の得点を目指す。
10. 「WebPerformer」上で SQL 文を記述し、アプリケーションからのデータベース操作を実装できる。

授業計画

前期

第 1 週 オリエンテーション（授業の全体像、成績評価 等）

第 2 週 SQL とデータベースの基礎

SQL とは何か、データベースの概要、データベース管理システム (DBMS) の紹介

第 3 週 データベースの作成と基本操作

データベースの作成 (CREATE DATABASE)、テーブルの作成 (CREATE TABLE)、データ型

第 4 週 データの挿入、更新、削除

データの挿入 (INSERT)、データの更新 (UPDATE)、データの削除 (DELETE)

第 5 週 データの検索 (基本)

SELECT 文の基礎、WHERE 句による条件指定

第 6 週 データの検索 (応用)

複数の条件 (AND、OR)、ソート (ORDER BY)

第 7 週 複数のテーブルを使った検索

JOIN の基本 (INNER JOIN)、複数テーブルからのデータ取得

第 8 週 集約関数とグルーピング

集約関数 (SUM、AVG など)、GROUP BY 句の使用

第 9 週 サブクエリ

サブクエリの概念と基本的な使い方、サブクエリを使ったデータの抽出

第 10 週 ビュー

ビューの作成と利用、ビューの利点と制約

第 11 週 前期総復習

第 12 週 資格試験問題演習①

第 13 週 資格試験問題演習②

第 14 週 資格試験問題演習③

第 15 週 前期期末試験

第 16 週 前期期末試験返却・フィードバック

第 17 週 前期期末再試験

後期

第1週 高度な JOIN 操作

外部結合 (LEFT JOIN、RIGHT JOIN)

複数テーブルの結合

第2週 トランザクション管理

トランザクションの概念、COMMIT と ROLLBACK

第3週 インデックス

インデックスの概念と利用、インデックスの作成と削除

第4週 データベースのセキュリティ

ユーザーと権限の管理、セキュリティのベストプラクティス

第5週 ストアドプロシージャとトリガー

ストアドプロシージャの基本、トリガーの作成と利用

第6週 高度な SQL クエリ

ウィンドウ関数、一時テーブルと変数

第7週 後期総復習

第8週 資格試験問題演習①

第9週 資格試験問題演習②

第10週 資格試験問題演習③

第11週 資格試験問題演習④

第12週 WebPerformerNX 演習①

第13週 WebPerformerNX 演習②

第14週 WebPerformerNX 演習③

第15週 WebPerformerNX 演習④

第16週 WebPerformerNX 演習⑤

第17週 後期期末試験

第18週 後期期末試験返却・フィードバック

第19週 後期期末再試験

2025 年度

講義、問題演習

教材

生徒用教材

なし

教師用参考教材

中山清喬・飯田理恵子(2024)『スッキリわかる SQL 入門 第 4 版』インプレス

渡部 亮太、舛井 智行(2021)『オラクルマスター教科書 Silver SQL Oracle Database SQL』翔泳社

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

授業外での学習方法

Web サービス「dokoQL」(<https://dokoql.jp/workspace>)を用いて実際にコードを入力してプログラムを実行し授業の内容を復習する。

実務経験と授業科目の関係

メガバンクの為替システム、自動車企業の予算システム等に計 7 年程度従事

情報ネットワーク

授業の目的

DX 人材としてネットワーク方式や通信プロトコル、IP アドレス等の技能について IT パスポート試験に合格できるレベルの知識を身につけ、VPN、VLAN、冗長化、ルーティングなどネットワークの根幹に関わる部分においても深い知見を得ることができる。

科	DX ビジネス科 (2 年制)	教員	見原 徹哉
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	なし
対象年次	2 年次	年間単位時間	週 1 コマ×49 週=49 コマ分 ※ 1 コマ 70 分

目標

前期

1. ネットワークの種類とネットワーク機器の役割について理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる。
2. 有線 LAN と無線 LAN の違いと仕組みを理解し、ネットワーク図の全体像を読み解けるようになる。
3. 通信プロトコルの種類と IP アドレスについて理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる。

後期

1. WAN の構成要素、通信事業者の提供する各種通信網の利点と欠点等を通じて VPN についての深い理解を得ることができる。
2. VLAN の技術を確立するための必要な機器の役割と仕組み、動作原理を理解し、企業内のケーススタディを通じて実際の業務と結びつけることができる。
3. どのような経路で相手に情報が届けられていくのか、ルーティングプロトコルについて熟知する事によってルータの役割と基本原理について深い理解を得ることができる。

授業計画

前期

- 第 1 回 授業の導入、オリエンテーション、IT パスポート試験におけるネットワーク技術の位置づけ
- 第 2 回 ネットワークの構成要素 (LAN と WAN)
- 第 3 回 ネットワーク機器 (ルータ、ハブ、ケーブル、ゲートウェイ)
- 第 4 回 有線 LAN① (イーサネットの構成、イントラネット)
- 第 5 回 有線 LAN② (規模によるネットワーク構成の違い)
- 第 6 回 有線 LAN③ (イーサネットの種類と速度、MAC アドレス、LAN の配線)
- 第 7 回 無線 LAN① (無線 LAN の基本構成)
- 第 8 回 無線 LAN② (Wi-Fi、アクセスポイント、SSID、チャンネル)
- 第 9 回 無線 LAN③ (暗号化、MAC アドレスフィルタリング、選択問題演習)
- 第 10 回 OSI 基本参照モデル
- 第 11 回 通信プロトコル① (プロトコルとは、TCP/IP、HTTP)
- 第 12 回 通信プロトコル② (SMTP、POP 他、選択問題演習)
- 第 13 回 IP アドレス① (IP アドレスとは、MAC アドレスとの違い、ドメイン名)
- 第 14 回 復習、期末試験対策
- 第 15 回 前期期末試験
- 第 16 回 試験返却・フィードバック
- 第 17 回 再試験

後期

- 第 1 回 IP アドレス② (DNS、プライベートアドレスとグローバルアドレス、DHCP、IPv6)
- 第 2 回 Web ページの検索、閲覧 (WWW、URL、Cookie)
- 第 3 回 電子メール① (アドレス構造、同報メール、web メール)
- 第 4 回 電子メール② (HTML 形式、選択問題演習)
- 第 5 回 WAN の構成要素と責任分界点
- 第 6 回 通信事業者が提供する通信網① (VPN とは、インターネット網との違い)
- 第 7 回 通信事業者が提供する通信網② (種類と詳細、利点と欠点、企業側の視点)

第 8 回	コリジョンとコリジョンドメイン
第 9 回	VLAN① (VLAN の仕組み)
第 10 回	VLAN② (VLAN 越えの構造と L3 スイッチ)
第 11 回	ロードバランサの役割
第 12 回	ネットワークの冗長化
第 13 回	ルーティング① (ルーティング、ルーティングプロトコルとは)
第 14 回	ルーティング② (RIP と OSPF)
第 15 回	ネットワークと音声 (VoIP、IP 電話とそのシステム全体像)
第 16 回	復習、期末試験対策
第 17 回	前期期末試験
第 18 回	試験返却・フィードバック
第 19 回	再試験

授業の方法

講義

教材

教科書：栢木厚「令和 05 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室 (情報処理技術者試験)」技術評論社

参考書：三上信男「ネットワーク超入門講座 第 4 版」S B クリエイティブ

評価の方法

試験 80%、授業態度 10%、課題 10%

授業態度については居眠り、授業と無関係なスマホの使用、参加への意欲が低い、教員の指示に従わない等は減点の対象とする。

授業外での学習方法

2025 年度

<https://www.itpassportsiken.com/ipkakomon.php>

IT パスポート試験の「過去問道場」を中心に活用し、授業内での問題演習以外でもそれぞれの回次で学習した範囲の問題演習を自主的に行い、知識の定着を図る

経験と授業科目の関係

なし

プログラミング II

授業の目的・概要

- JavaScript の基本的な文法と機能について理解する。
- ローコード開発ツール「WebPerformerNX」を用いて簡単な Web アプリケーションを作成・運用できるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	大野 将之
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	98

目標

前期

- JavaScript により書かれたプログラムが実行されるまでの流れを理解できる。
- 基本的なコンピュータ上の計算を、JavaScript を用いて記述できる。
- ブラウザとテキストエディタを用いて単純な Web アプリケーションを作成することができる。

後期

- 「WebPerformerNX」上で、コンポーネントを配置し UI（アプリケーションの操作画面）を作成することができる。
- 「WebPerformerNX」上で、JavaScript を用いてログインや操作履歴の表示等の簡単な機能を実装できる。
- 設計・開発・テストの流れに沿って業務に使われることを想定した Web アプリケーションを作成することができる。

授業計画

前期

- 第 1 週 JavaScript 導入
- JavaScript とは何か、環境設定（ブラウザ、テキストエディタ）

第 2 週	基本文法 変数 (var、let、const) 、基本的なデータ型 (数値、文字列、論理値)
第 3 週	演算子と制御構造 算術演算子、比較演算子、if 文による条件分岐
第 4 週	ループと反復処理 for ループ、while ループ、配列の基本とループ処理
第 5 週	関数 関数の定義と呼び出し、パラメータと戻り値
第 6 週	オブジェクト オブジェクトリテラル、プロパティとメソッド
第 7 週	配列の応用 配列のメソッド (push、pop、slice 等) 、forEach、map、filter 等の高階関数
第 8 週	DOM 操作の基本 HTML との連携、要素の選択と操作
第 9 週	イベントハンドリング イベントリスナーの追加、イベントオブジェクト
第 10 週	フォームと UI の操作 フォーム要素の取り扱い、UI 操作 (入力値の取得、表示の更新)
第 11 週	JavaScript でのエラー処理 try...catch 文、エラーオブジェクト
第 12 週	JavaScript での非同期処理 setTimeout、setInterval、非同期処理の基本的な概念
第 13 週	Web API の基本 Web API とは何か、簡単な API を使ったデータの取得
第 14 週	復習・演習 簡単なウェブアプリケーションの作成
第 15 週	前期期末試験

第 16 週 前期期末試験返却・フィードバック

第 17 週 前期期末再試験

後期（講師：キャノン ITS 様）

第 1 週・第 2 週 オリエンテーション、課題提示

ローコード開発とは、WebPerformerNX について、機能と操作

第 3 週・第 4 週 要件定義とは／実践演習

第 5 週・第 6 週 基本設計とは／実践演習

第 7 週・第 8 週 詳細設計とは／実践演習

第 9 週・第 10 週 コーディング①

第 11 週・第 12 週 コーディング②

第 13 週・第 14 週 テスト手法について／実践演習

第 15 週 発表準備

第 16 週 発表

第 17 週 後期期末試験

第 18 週 後期期末試験返却・フィードバック

第 19 週 後期期末再試験

授業の方法

講義、問題演習、グループワーク

教材

亀田健司 (2023) 1 週間で JavaScript の基礎が学べる本
WebPerformer-NX (<https://nx.webperformer.jp/base/apps/app-list>)

評価の方法

前期：試験 80%、授業態度 20%

授業態度点には Web アプリケーション作成演習の成果物への評価も含めるものとする。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

2025 年度

後期：試験 80%、授業態度 20%

授業態度点には Web アプリケーション作成演習の成果物への評価も含めるものとする。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

授業外での学習方法

Web サービス「paiza.io」(<https://paiza.io/ja/projects/new>)を用いて実際にコードを入力してプログラムを実行し授業の内容を復習する。

実務経験と授業科目の関係

資格対策講座

授業の目的

- ・ Java SE Bronze 合格
- ・ プログラミング言語「Java™」の応用的な文法と考え方を理解し、プログラムの流れを理解できるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	村田 健治
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

目標

前期

プログラミングⅠの学習範囲に加え、Java の概要、変数・データ型・演算子、条件分岐、繰り返し構文、配列・メソッド、オブジェクト指向、モデリングと UML を理解できるようになる。

後期

プログラミングⅠの学習範囲に加え、インスタンスの扱い方、オブジェクト型、配列・パッケージによるクラスのカテゴリ、クラスの継承、ポリモーフィズム、抽象化プログラミング、コレクション、標準クラスライブラリを理解できるようになる。

Java SE Bronze の既習範囲について、7 割以上得点することができる。

授業計画

前期

- 第 1 回 オリエンテーション（概要説明、成績評価、全体の流れ）
- 第 2 回 問題演習（Java の概要・変数、データ型、演算子）
- 第 3 回 答案解説（Java の概要・変数、データ型、演算子）
- 第 4 回 問題演習（条件分岐）

- 第 5 回 答案解説 (条件分岐)
- 第 6 回 問題演習 (繰り返し構文)
- 第 7 回 答案解説 (繰り返し構文)
- 第 8 回 問題演習 (配列・メソッド)
- 第 9 回 答案解説 (配列・メソッド)
- 第 10 回 問題演習 (オブジェクト指向)
- 第 11 回 答案解説 (オブジェクト指向)
- 第 12 回 問題演習 (モデリングと UML)
- 第 13 回 答案解説 (モデリングと UML)
- 第 14 回 試験対策
- 第 15 回 前期期末試験
- 第 16 回 前期期末試験返却
- 第 17 回 前期期末再試験

後期

- 第 1 回 前期復習、試験説明
- 第 2 回 問題演習 (インスタンスの扱い方)
- 第 3 回 答案解説 (インスタンスの扱い方)
- 第 4 回 問題演習 (オブジェクト型)
- 第 5 回 答案解説 (オブジェクト型)
- 第 6 回 問題演習 (配列・パッケージによるクラスの分類クラスの継承)
- 第 7 回 答案解説 (配列・パッケージによるクラスの分類クラスの継承)
- 第 8 回 問題演習 (ポリモーフィズム)
- 第 9 回 答案解説 (ポリモーフィズム)
- 第 10 回 問題演習 (抽象化プログラミング)
- 第 11 回 答案解説 (抽象化プログラミング)
- 第 12 回 問題演習 (コレクション)

2025 年度

- 第 13 回 答案解説（コレクション）
- 第 14 回 問題演習（標準クラスライブラリ）
- 第 15 回 解答解説（標準クラスライブラリ）
- 第 16 回 試験対策
- 第 17 回 後期期末試験
- 第 18 回 後期期末試験返却
- 第 19 回 後期期末再試験

授業の方法

講義、演習

教材

志賀 澄人（2017）「2 週間で Java SE Bronze の基礎が学べる本」インプレス

志賀 澄人／山岡敏夫（2020）「徹底攻略 Java SE Bronze 問題集」インプレス

山本 道子（2020）「オラクル認定資格教科書 Java プログラム Bronze SE」翔泳社

評価の方法

期末試験 80%、授業点 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

授業外での学習方法

AtCoder (<https://atcoder.jp/>) 等を用いて、Java の問題演習を行い文法の理解を深める

実務経験と授業科目の関係

メガバンクの為替システム、自動車企業の予算システム等に計 7 年程度従事

ビジネスコミュニケーションⅡ

授業の目的・概要

- 社内でのビジネスコミュニケーションにおいて共通の意思決定を行う場面を想定し
4つの会議の種類とその目的の違いを理解する。また会議遂行に必要なファシリテーターの役割を理解することができる。
- ファシリテーターとして会議の議事進行において考慮すべきポイントを理解した上で、
ファシリテーターとして会議(オフライン/オンライン)を遂行できるようにする。
またAIの活用により業務効率化を図る方法を知り、実践できるようにする。

科	DX ビジネス科 (2 年制)	教員	岩田 未緒
コース	DX ビジネスコース	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位時間	98

目標

前期

- ミッション設定、目標設定、社内ビジネスコミュニケーションの重要性を理解することができる
- 4つの会議体（情報共有型/意思決定型/アイデア提案型/コミュニケーション型）について目的の違いを理解することができる
- 会議進行に必要なファシリテーターの役割を理解することができる

後期

- ファシリテーターとしてスムーズな会議進行を促すためのポイントを理解することができる
- 2つの会議手法（オフライン/オンライン）の特性を理解して会議を進行することができる
- AIを活用して、会議（運営/社内共有）の効率的な運営をすることができる

授業計画

前期

- 第1回 オリエンテーション 授業の目的・目標・成績評価方法等説明
- 第2回 社内におけるビジネスコミュニケーション① ～どんなものが、なぜ必要なのか～
- 第3回 社内におけるビジネスコミュニケーション② ～1,000名以下の中小企業の事例～

- 第 4 回 社内におけるビジネスコミュニケーション③ ～1,000 名以上の大手企業の事例～
- 第 5 回 事例：会社における意思決定はどのように行われるのか
- 第 6 回 事例：共通の意思決定の場がなかったらどうなるのか
- 第 7 回 事例：コミュニケーション不足による業務への影響
- 第 8 回 会議の種類 ～情報共有型会議～営業会議編
- 第 9 回 会議の種類 ～情報共有型会議～定例会議編
- 第 10 回 会議の種類 ～意思決定会議～
- 第 11 回 会議の種類 ～アイデア提案型会議～企画会議編
- 第 12 回 会議の種類 ～アイデア提案型会議～ブレインストーミング編
- 第 13 回 会議の種類 ～コミュニケーション型会議～1on1 ミーティング編
- 第 14 回 会議の種類 ～コミュニケーション型会議～キックオフミーティング編
- 第 15 回 目的別の会議種類まとめ
- 第 16 回 会議で良く使われる用語、知っておくべき用語
- 第 17 回 ファシリテーターの役割について
- 第 18 回 会議に向けた準備 ～情報整理～
- 第 19 回 ファシリテーターに必要なスキル・道具
- 第 20 回 実践演習とフィードバック① アイデア提案型会議
- 第 21 回 実践演習とフィードバック② コミュニケーション型会議
- 第 22 回 実践演習とフィードバック③ 意思決定型会議
- 第 23 回 実践演習とフィードバック④ 定例会議（後期の第 21 回授業に 2 回目定例会議あり）
- 第 24 回 前期 まとめ 試験対策①
- 第 25 回 前期 まとめ 試験対策②
- 第 26 回 前期期末試験
- 第 27 回 試験返却①
- 第 28 回 試験返却②
- 第 29 回 再試験①
- 第 30 回 再試験②

後期

- 第 1 回 前期内容のふりかえり
- 第 2 回 スムーズな会議進行のポイント① ～発言の見える化～
- 第 3 回 スムーズな会議進行のポイント② ～活発に議論する～
- 第 4 回 スムーズな会議進行のポイント③ ～意見を整理する～
- 第 5 回 ファシリテーターの様々な手法①
- 第 6 回 ファシリテーターの様々な手法② ～事例紹介～
- 第 7 回 コロナ化を経て変化を遂げる会議形態（オンライン/オフサイト）
- 第 8 回 オンライン会議とオフライン会議のメリット/デメリット
- 第 9 回 オフライン会議の手法
- 第 10 回 実践演習：オフライン会議
- 第 11 回 オフライン会議の特徴と注意点
- 第 12 回 オンライン会議の種類（Zoom/Google Meet/Skype/Teams）
- 第 13 回 実践演習：オンライン会議
- 第 14 回 オンライン会議における特徴と注意点
- 第 15 回 実践演習：AI を活用した会議の効率化について①
- 第 16 回 実践演習：AI を活用した会議の効率化について②
- 第 17 回 会議体における AI 活用のまとめと注意点
- 第 18 回 実践演習：ChatGPT を活用した会議資料のまとめ方①
- 第 19 回 実践演習：ChatGPT を活用した会議資料のまとめ方②
- 第 20 回 会議体における ChatGPT 活用のまとめと注意点
- 第 21 回 実践演習：定例会議（これまで学んだ手法を活用）
- 第 22 回 フィードバック、振り返り①
- 第 23 回 フィードバック、振り返り②
- 第 24 回 総復習・試験対策①
- 第 25 回 総復習・試験対策②
- 第 26 回 後期期末試験

2025 年度

第 27 回 試験返却①

第 28 回 試験返却②

第 29 回 再試験①

第 30 回 再試験②

授業の方法

講義、実践演習、ディスカッション、ケーススタディ

教材

竹本 記子：テキスト「知っておけば怖くない ファシリテーション超入門 場をまとめて成果を出す 「会議・打ち合わせ」の進め方」メイツ出版

大野栄一：会議の成果を最大化する「ファシリテーション」実践講座 日本実業出版社

(以下、テキストは無くても大丈夫です)

谷益美：テキスト「マンガでやさしくわかるファシリテーション」日本能率協会

平石直之：ファシリテーションは7日間でわかります Gakken

評価の方法

前期：試験 70% (ペーパーテスト)、実践授業 10% (発表内容等)、授業態度 20% (出欠席・遅刻・居眠り・授業に無関係なスマホの使用等含む)

後期：試験 60% (ペーパーテスト)、実践授業 20% (実践授業の取組み姿勢、事前準備、習得技術の実施状況)、授業態度 20% (出欠席・遅刻・居眠り・授業に無関係なスマホの使用等含む)

授業外での学習方法

毎日のニュースを確認し、海外や日本の社会においてどのような会議が行われているかを知り、どのような会議体を持って、どんな結論が出たのかを調べて理解する。

日頃の対人コミュニケーションにおいても「相手の心理的安全を守り、相手の発言を促す事」

「会話の要点をまとめる」ことを頭の中で意識するようにする。

実務経験と授業科目の関係

大手企業において約 17 年間法人営業を経験

キャリアデザイン I

授業の目的

- ・自身のキャリアプランを考え、そのために必要な行動(いつ・なにを・どうやって)を理解する。
- ・就職活動を通じ、DX 人材として必要な逆算の思考を身につける。
- ・企業からの内定を獲得するために必要な就職活動に関する技術を身につける。

科	DX ビジネス科	教員	寺尾
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

目標

前期

- ・自分がどういうところで働きたいか考察し、言語化できるようになる
- ・自己理解を深め、卒業後のキャリアデザインを描くことができるようになる
- ・「働く意義・目的」を理解し、「社会の一員となり、社会の役割の一端を担う」ことを理解する
- ・就職活動を行う上で必要な自己分析を行うことができるようになる

後期

- ・就職活動への円滑な移行ができる「リテラシー」を理解する
- ・就職活動への主体的な行動を起こせる「コンピテンシー」を理解する
- ・逆算の思考を用い、卒業後の進路のために、いつ・なにをすればよいか計画性を身につける
- ・15 回の授業後、履歴書を作成する技能を身に付ける

授業計画

前期

第 1 回	introduction キャリアデザインの必要性
第 2 回	仕事の価値観とライフスタイルの明確化
第 3 回	働き方にはどんな種類があるのか

第 4 回	世の中にはどんな仕事があるのか(職種・業種を知る)
第 5 回	就職活動において必要なことを理解する(目標の言語化と逆算思考)
第 6 回	日本社会での就職活動の進め方
第 7 回	自己評価の理論
第 8 回	現代社会の理解
第 9 回	キャリアデザインマップの作成手法を学習
第 10 回	キャリアデザインマップの作成
第 11 回	キャリアデザインマップのプレゼンテーション
第 12 回	社会で求められる人材について
第 13 回	自己分析① 自己分析は何のために行うのか
第 14 回	自己分析② 自己分析と就職活動の戦略
第 15 回	前期期末試験
第 16 回	前期試験試験返却
第 17 回	前期期末再試験
後期	
第 1 回	introduction 前期の復習と後期の進め方
第 2 回	就職活動を行うにあたって意識すべきこと
第 3 回	進路選択の手法とエントリーシートの書き方
第 4 回	履歴書① 履歴書の重要性
第 5 回	履歴書② 面接で好印象な自己紹介
第 6 回	履歴書③ 自分の長所・短所を知る
第 7 回	履歴書④ 職種ごとの自己 PR を学ぶ
第 8 回	面接練習① 面接の種類とマナー
第 9 回	面接練習② 面接実践
第 10 回	面接練習③ グループディスカッション実践 I
第 11 回	面接練習④ グループディスカッション実践 II

第 12 回	就職基礎能力の開発Ⅰ	(SPI 試験対策①)
第 13 回	就職基礎能力の開発Ⅱ	(SPI 試験対策②)
第 14 回	就職基礎能力の開発Ⅲ	(SPI 試験対策③)
第 15 回	就職基礎能力の開発Ⅳ	(SPI 試験対策④)
第 16 回	後期のまとめ	
第 17 回	後期期末試験	
第 18 回	後期期末試験返却	
第 19 回	後期期末再試験	

授業の方法

授業計画に従って、講義形式又はグループディスカッション、グループワークを行う。

グループワークではアクティブラーニングの一種である「チーム基盤型学習 Team-based-learning」を行う。

教材

主教材：なし

副教材：

村山昇(2018)「働き方の哲学 360 度の視点で仕事を考える」ディスカヴァー・トゥエンティワン

坪谷邦生(2020)「図解 人材マネジメント 入門 人事の基礎をゼロからおさえておきたい人のための「理論と実践」100 のツボ」ディスカヴァー・トゥエンティワン

岡 茂信(2020)「マイナビ 2022 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 自己分析 適職へ導く書き込み式ワークシート (マイナビオフィシャル就活 BOOK)」マイナビ出版

評価の方法

学期末試験 80%、授業態度・課題等 20%

授業外での学習方法

復習：毎回授業の後は、どのような事を学んだのか振り返り、最終的に自分の言葉で人に説明できるよう

2025 年度

になる。

予習：ニュースから社会情勢を積極的に予習し、自己のキャリアビジョンに基づき、就職環境の理解に努めること。

実務経験と授業科目の関係

<https://docs.google.com/document/d/139YxKfxp5bB9SfeDIV2tL6iQqHRgFV4Z/edit>

<https://docs.google.com/document/d/1JJb-Nqky0wGwNIH0vj7x4ko2srllpGm8/edit>

資格対策講座

授業の目的

- ・ 基本情報技術者試験合格
- ・ IT の基礎知識を体系的に身につけ、日本企業に就職した後、顧客、社内の情報システム部門、IT 企業との円滑なコミュニケーションが行えるようになる。
- ・ 基本情報技術者試験の全 12 科目のうち、他の授業で教えない範囲を中心に講義を行う。

科	DX ビジネス科	教員	村田 健治
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

目標

前期

IT パスポートの学習範囲に加え、基礎理論、アルゴリズムとプログラミング、コンピュータ構成要素、ソフトウェアとマルチメディア、コンピュータ構成要素、システム開発技術の応用的な知識を身に着ける。
基本情報技術者の既習範囲について、6 割以上得点することができる。

後期

IT パスポートの学習範囲に加え、データベース技術、ネットワーク技術、情報セキュリティ、システム開発技術、マネジメント系、ストラテジ系の応用的な知識を身に着ける。
科目 B 対策を行い、疑似言語、文章問題の問題が解けるようになる。
基本情報技術者の既習範囲について、8 割以上得点することができる。

授業計画

前期

- 第 1 回 オリエンテーション（概要説明、成績評価、全体の流れ）
第 2 回 基礎理論①（基数変換、補数と固定小数点、浮動小数点、誤差）

第 3 回 基礎理論② (シフト演算、論理演算、半加算器と全加算器)

第 4 回 基礎理論③ (計測と制御、オートマン)

第 5 回 基礎理論④ (AI、線形代数、確率・統計)

第 6 回 アルゴリズムとプログラミング① (アルゴリズム、配列、連結リスト、キューとスタック)

第 7 回 アルゴリズムとプログラミング② (木構造、データの整列、データの探索、アルゴリズムの計算量)

第 8 回 アルゴリズムとプログラミング③ (プログラムの性質、プログラム言語とマークアップ言語)

第 9 回 コンピュータ構成要素① (情報の表現、コンピュータの構成、CPU、CPU の動作原理、CPU の高速化技術)

第 10 回 コンピュータ構成要素② (半導体メモリ、補助記憶装置、入出力装置、入出力インタフェース)

第 11 回 ソフトウェアとマルチメディア (ソフトウェア、ジョブ管理とタスク管理、記憶管理、ファイル管理、マルチメディア)

第 12 回 システム構成要素 (システム構成、クライアントサーバシステム、RAID と信頼性設計、システムの性能評価、システムの信頼性評価)

第 13 回 問題演習 (テクノロジ系)

第 14 回 試験対策

第 15 回 前期期末試験

第 16 回 前期期末試験返却

第 17 回 前期期末再試験

後期

第 1 回 オリエンテーション (概要説明、成績評価、全体の流れ) 文章問題解説

第 2 回 データベース技術① (データベース、データベース設計、データの正規化、トランザクション処理、データベースの障害回復)

第 3 回 データベース技術② (データ操作と SQL、SQL (並べ替え・グループ化)、SQL (副問合せ)、データベースの応用)

第 4 回 ネットワーク技術① (ネットワーク方式、通信プロトコル、ネットワーク接続装置)

- 第 5 回 ネットワーク技術② (IP アドレス、IP アドレスのクラス、インターネットの応用)
- 第 6 回 情報セキュリティ① (情報セキュリティ管理、脅威とマルウェア、サイバー攻撃)
- 第 7 回 情報セキュリティ② (暗号技術、認証技術、利用者認証とネットワークセキュリティ)
- 第 8 回 システム開発技術① (情報システム戦略と企画・要件定義プロセス、ソフトウェア開発、オブジェクト指向)
- 第 9 回 システム開発技術② (業務モデリング、ヒューマンインタフェース、モジュール分割、テスト手法)
- 第 10 回 マネジメント系 (プロジェクトマネジメント、スコープ・コストマネジメント、タイムマネジメント、IT サービスマネジメント、システム監査)
- 第 11 回 ストラテジ系① (ソリューションビジネスとシステム活用促進、経営組織と経営・マーケティング戦略、業績評価と経営管理システム)
- 第 12 回 ストラテジ系② (技術開発戦略、ビジネスインダストリ、品質管理、会計・財務)
- 第 13 回 ストラテジ系③ (知的財産権とセキュリティ関連法規、労働・取引関連法規と標準化、オペレーションズリサーチ)
- 第 14 回 科目 B 対策 (疑似言語、文章問題)
- 第 15 回 問題演習 (全範囲)
- 第 16 回 試験対策
- 第 17 回 後期期末試験
- 第 18 回 後期期末試験返却
- 第 19 回 後期期末再試験

授業の方法

講義、演習

教材

栢木 厚 (2023) 「令和 06 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる かやのき先生の基本情報技術者教室」
技術評論社

2025 年度

評価の方法

期末試験 80%、授業点 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

授業外での学習方法

基本情報技術者過去問道場

<https://www.fe-siken.com/fekakomon.php>

実務経験と授業科目の関係

—